

県立高等学校再編振興計画

「後期実施計画」

(平成 31 年度～平成 35 年度)

〔最終とりまとめ

(パブリックコメント案)〕

平成 30 年 9 月

高知県教育委員会

目 次

I	県立高等学校再編振興計画について	1
II	計画の基本的な考え方 ※「県立高等学校再編振興計画」で策定済みのため割愛	
III	前期実施計画 ※「前期実施計画」で策定済みのため割愛	
IV	後期実施計画	
1	ICTの活用による中山間地域の高等学校の教育の充実について	1
2	南海トラフ地震への対応について	3
3	統合等について	5
4	共通した項目について	8
5	学校の振興に向けた新たな（又は拡充する）取組について	10
(1)	東部地域	10
(2)	中部地域	14
(3)	北部地域	24
(4)	高吾地域	26
(5)	幡多地域	30
<hr/>		
資料		
1	審議過程	36
2	県立高等学校及び県立中学校の改編等の実施状況	38
3	地域別中学校卒業生数の推移	40
4	平成31年度県立高等学校募集学級数別学校一覧	41
5	平成31年度県立高等学校の学科及びコース一覧	42
6	「県立高等学校再編振興計画」における適正な学校規模の維持と適切な学校の配置について	43
7	安芸中学校・高等学校安芸桜ヶ丘高等学校の統合後の学校の姿	44

I 県立高等学校再編振興計画について

「県立高等学校再編振興計画」は、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間の県立中学校・高等学校の在り方と方向性を示した「基本的な考え方」と、それに基づいて県立中学校・高等学校の再編振興を実現するための具体的な「実施計画」で構成する。

「実施計画」は、平成 35 年度までの 10 年間を、前期と後期の 2 期（前期：平成 26 年度～平成 30 年度、後期：平成 31 年度～平成 35 年度）に分けて策定する。今回の「実施計画」は「後期実施計画」とし、後期実施計画は、前期実施計画の実施期間中の適切な時期に策定する。

II 計画の基本的な考え方 ※「県立高等学校再編振興計画」として平成 26 年 10 月に策定済み

III 前期実施計画 ※「前期実施計画」として平成 26 年 10 月に策定済み

IV 後期実施計画

1 ICT の活用による中山間地域の高等学校の教育の充実について

(1) 現状と課題

ア 大学進学に対応した教育環境の整備

中山間地域の小規模校は、生徒数が少なく教員の配置数が限られる中、就職から進学まで幅広い学力層の生徒に対応できる教育課程の編成が必要であり、中心部の大規模校のように、大学の受験に必要な科目を全て開講することは困難な場合が多い。

イ 中山間地域の高等学校の生徒確保

中山間地域の人口が減少する中で、地元を離れた高等学校に進む生徒も多く、中山間地域の高等学校の生徒数の減少が進んでいる。

(2) 目指す姿

「どの地域に住んでいても、誰もが迅速に同じ情報を得られる」という ICT※の特性を最大限に活用し、中山間地域の教育環境の充実が図られている。

ア 地理的条件や学校規模の差に影響されない、充実した教育環境の実現

中山間地域の小規模校においても、難関大学への進学など希望する進路の実現に向けて、生徒が中心部の大規模校と同じ条件で学習できる教育環境が整っている。

また、中山間地域の豊かな自然環境や人のあたたかさ、働きやすさ、子育てしやすさなどに魅力を感じ、本県に移住された世帯やこれから移住を希望する方々にとっても、安心して学ぶことができる教育環境が確保されている。

イ 地域人材の育成

地域課題の解決等の探究的な学びの実現を通じて、地域の良さを学びコミュニティを支える人材が育っている。

また、教育環境が課題となり、若い子育て世代が住み慣れた地域を離れ中心部に流出する現状に、歯止めをかけることができることとともに、地元で活躍する高校生の増加は、中山間地域の活性化にもつながっている。

(3) 現在の取組状況

ア オンデマンド教材※の活用

- 室戸高等学校、山田高等学校、嶺北高等学校、高知追手前高等学校吾北分校、須崎高等学校、佐川高等学校、窪川高等学校、檮原高等学校、四万十高等学校、中村高等学校西土佐分校、宿毛高等学校、清水高等学校
- ・大学進学を希望する郡部の生徒が利用できる。
 - ・全ての科目を自由な時間に視聴することが可能である。

イ 遠隔教育※の実施

- 高知追手前高等学校と高知追手前高等学校吾北分校
窪川高等学校と四万十高等学校
岡豊高等学校と嶺北高等学校
檮原高等学校と他の県立高等学校
- ・双方向のやりとりが可能であり、実際の授業に近い形態で実施している。
 - ・一部の学校では授業の単位認定を実施している。

(4) 今後の方向性

ア オンデマンド教材の活用

- ・学校の状況に合わせて、適切なオンデマンド教材の選定や、導入する学年や対象生徒を検討する。
- ・オンデマンド教材の活用に加えて、教員及び学習支援員による組織的な支援体制を構築する。
- ・生徒の更なる自主的な視聴利用を奨励する。

イ 遠隔教育の実施

- ・県教育センターを配信拠点とした遠隔授業・補習授業を全ての中山間地域の高等学校に展開できるように、実施体制の構築や機器・通信網の整備を促進する。
- ・効果的な遠隔授業の導入を図るため、遠隔教育に対応した学習指導案の作成、各校間での教育課程や担当教員の調整、連携体制を構築する。

【具体的な取組例】

- 放課後や週末等における「専任の教員による進学指導講座」の実施
- これまで受講者が少ない等の事情により開設できなかった授業科目の開講
- 就職等に資する資格試験対策講座の開講
- 中学復習講座など学び直しのための授業の開講

ウ 学習活動の充実

- ・新高等学校学習指導要領（平成 34 年施行）に基づき、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用した学習活動が充実できるよう、タブレット PC の配布など、校内の ICT 環境の整備を促進する。

2 南海トラフ地震への対応について

津波による大きな被害が想定される学校については、生徒・教職員の命を守ることを第一に考え、学校の特性や地域の実態を考慮した取り得る最大限の対応を進める。

(1) 安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校について

(対応方針)

安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校とを統合し、適正規模を維持した学校を設け、東部地域の活力ある拠点校とする。安芸桜ヶ丘高等学校の敷地に統合後の学校を設置する。

〔実施年度〕 ○統合に向けた学科改編 平成 34 年度

○統合完了 平成 35 年度

※詳細は、「3 統合等について」の 5 ページ参照

(2) 清水高等学校について

(対応方針)

清水高等学校（全日制・定時制）を高台へ移転することとし、新たな校舎を設置する。

〔実施年度〕 ○用地取得や必要な施設整備を検討し、平成 35 年度をめどに移転を進める。

ア 高台移転に向けた考え方

南海トラフ地震による津波被害から確実に生徒を守るために、速やかに高台へ移転することとする。あわせて、清水高等学校の活性化策に向けた取組の推進や、清水中学校との連携型中高一貫教育※を更に発展させることを目的に、充実した教育環境を整備する。

イ 目指す姿

移転後の清水高等学校は、全日制の課程と定時制の課程を併置する。

清水中学校の隣に清水高等学校を設置することで、教員間及び生徒間交流等の連携が深まり、清水中学校との連携型中高一貫教育による連携授業等の一層の推進が図られる。

ウ 施設整備

清水中学校と清水高等学校で教室や職員室などは別棟とし、体育館やグラウンド等はできるだけ共用する。

(3) 高知海洋高等学校について

ア 考え方

学科の特性から、教育活動を実践するため、海沿いに校舎を構える必要がある。現在の校地は、津波による被害が想定される立地であるため、地域と連携した避難訓練等の実施や BCP（事業継続計画）※の策定等のソフト面の対策と同時に、避難場所の確実な確保や、避難場所へ向かう避難路の安全確保を徹底して行うなど、ハード面の整備を実施する。

なお、南海トラフ地震による津波への対応のため、一部の学校施設等の適地への移転の可能性も含め、将来の学校の在り方を検討していく。

イ 取組

- ・複数の防災の専門家による現地検証を行い、確実に避難できるよう、必要な対策を実施する。
- ・平成 31 年度から、学校関係者や地元自治体、地域の方々と適地への移転も含めた様々な可能性について協議する会を開催し、移転する場合の範囲（実習場所、学科・コースの一部移転等）や、移転の方法、移転場所の候補地などについて協議するものとする。

(4) 宿毛高等学校について

ア 考え方

現在の校地は宿毛市中心部にあるが、津波被害は市内中心部が広範囲に浸水すると想定されている。そのため、地域と連携した避難訓練等の実施やBCP（事業継続計画）の策定等のソフト面の対策と同時に、避難場所の確実な確保や、避難場所へ向かう避難路の安全確保を徹底して行うなど、ハード面の整備を実施する。

なお、南海トラフ地震による津波への対応のため、一部の学校施設等の適地への移転の可能性も含め、将来の学校の在り方を検討していく。

イ 取組

- ・複数の防災の専門家による現地検証を行い、確実に避難できるよう、必要な対策を実施する。
- ・平成31年度から、学校関係者や地元自治体、地域の方々と適地への移転も含めた様々な可能性について協議する会を開催し、移転する場合の範囲（グラウンドや体育館を除く校舎の移転等）や、移転の方法、移転場所の候補地などについて協議するものとする。

3 統合等について

(1) 本校

ア 安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校との統合について

(対応方針)

安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校とを統合し、適正規模を維持した学校を設け、東部地域の活力ある拠点校とする。安芸桜ヶ丘高等学校の敷地に統合後の学校を設置する。

〔実施年度〕○統合に向けた学科改編 平成 34 年度

○統合完了 平成 35 年度

(ア) 統合に向けた考え方

東部地域の生徒数の減少が続く中であっても、より良い教育環境を保証することができる適正規模の、1 学年 4 学級規模以上の学校を維持することが重要であるが、安芸高等学校は生徒数が 3 学級規模、安芸桜ヶ丘高等学校は生徒数が 1 学級規模の学校となっている。

また、安芸中学校・高等学校は、南海トラフ地震による津波被害で長期浸水が予想されている地域であり、校舎自体が海岸に面していることもあり、他の県立中学校・高等学校よりリスクが高いことや、被災後の早期の学校再開が困難となることが想定されることから、津波被害から確実に生徒を守ることや被災後の学校の早期再開を考えると、移転が望ましい。

こうしたことを踏まえ、震災に強く、適正規模を維持した東部地域の活力ある拠点校を設けるため、安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校を統合し、統合後の中高一貫教育校を安芸桜ヶ丘高等学校の敷地に設置する。

(イ) 目指す姿

統合後の中高一貫教育校は、進学指導の実績がある安芸高等学校と、就職に強い安芸桜ヶ丘高等学校のそれぞれの強みを生かし、更に発展させることで、東部地域の進学拠点校として、大学進学等にも対応できる学力を保証するとともに、体験的な活動を通して勤労観・職業観を養い、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応する。

そのため、国公立大学や難関私立大学への進学にも対応できる教育課程を編成するとともに、中高 6 年間を通じた系統的な指導や、習熟度に応じたきめ細かな学習指導を更に充実する。

工業科や商業科では、幅広い専門的な知識・技術を学ぶ体制を整え、職業教育の充実を図るとともに就職支援の強化を推進する。

また、地域を支える人材の育成を図るために、地域と連携した防災教育の推進や、安芸市を含む東部地域の地域おこし活動に取り組むことで、社会性や協調性の育成を図る。さらに、生徒の希望等に応じた多様な部活動や生徒会活動、体育祭・文化祭等の特別活動の充実を図ることで、生徒が切磋琢磨できる環境づくりを推進する。

こうした取組によって、地域から信頼され、地域内の中学生が行きたいと思う学校づくりを推進し、地域内の中学校からの進学率向上を目指す。

なお、併設中学校については、併設高等学校の 3 つの学科に進学できることとする。そのため、中学校段階から系統的なキャリア教育を実施し、将来の自分の在り方、生き方を考えたうえで進路選択できるよう指導體制を充実する。さらに、基礎基本となる学力の定着を図るとともに、部活動も充実させる。

(ウ) 統合の方法

統合後の中学校は、2 学級規模を予定しているが、統合前年度となる平成 34 年度の志願者数を踏まえて、平成 35 年度の募集定員については、平成 34 年 6 月までに決定する。

統合後の高等学校は、全日制の課程で普通科 3 学級と工業科 1 学級、商業科 1 学級の 1 学年 5 学級規模とする。

統合にあたっては、安芸高等学校及び安芸桜ヶ丘高等学校とも、平成 34 年度入学生から学科改編を行い、新教育課程による教育内容を実施する。

統合は、平成 35 年 4 月 1 日に実施し、平成 35 年度入学生は統合後の学校で募集する。

統合後の学校の校名については、安芸中学校・高等学校とする。なお、その他の校章・校歌・制服・スクールカラー等の取扱いについては、両校の学校関係者等の意見も聴取しながら、制服については平成31年10月末、それ以外の校章等については、平成33年度末までに県教育委員会会で検討し、決定する。

(エ) 教育環境の充実

統合までの間、地域と連携した取組や部活動を通じて、両校の生徒の交流を積極的に進めるとともに、生徒の学力向上や教員の指導力向上の取組を進めていく。

また、ハード面の整備については、移転先となる安芸桜ヶ丘高等学校の通常教室となる校舎と体育館を津波対策を踏まえたものに改築する。さらに、必要な実習棟などの改修や設備の更新なども行い、中高一貫教育校として充実した教育環境の整備を行う。

イ 窪川高等学校と四万十高等学校の在り方について

(対応方針)

窪川高等学校と四万十高等学校については、条件付で継続する。

(ア) 考え方

窪川高等学校、四万十高等学校については、1校としての規模が小さく、現在は両校あわせても実質1学級規模の生徒しかおらず、生徒の多様な学習ニーズや集団生活による社会性の育成、部活動等において、高等学校教育の質を確保することが難しい状況がある。

また、将来的にも生徒数が減少していくことが予測され、それに伴い学校規模が縮小すれば、学校の活力が更に低下していくことが考えられる。将来の子どもたちのために、今後も充実した教育活動を維持するためには、一定の規模（生徒数）で活力ある教育活動を展開することが必要である。

一方で、高等学校は、地域における子どもたちの教育の重要な拠点であるとともに、住民の生活にも関わる大切な施設である。特に中山間地域においては、地域を支える人材の育成という点で、その存在意義はより大きなものがある。さらに、中山間地域振興の核ともなり得ることから、少子化の中にあっても可能な限りその機能の維持、拡充を図ることが重要である。

これらのことを踏まえ、地域の良さを学び、コミュニティを支える人材を育成することを目的に、地域に根差した学校として、様々な教育活動に取り組んできた窪川高等学校と、連携型中高一貫教育を通じて、中学校や小中学校PTAなどとともに生徒育成に取り組んできた四万十高等学校において、地域振興の核としての高等学校の機能を強化する。

(イ) 目指す姿

高等学校は、地域人材の育成において極めて重要な役割を担うとともに、高等学校段階で地域の産業や文化等への理解を深めることは、その後の地元定着やUターン等にも資する。

このため、高等学校が地域と連携しながら、地域課題の解決等を目的とした探究的な学び[※]を提供するとともに、インターンシップの充実等を通じて地域の魅力に触れることができる取組を推進し、社会への参画意識を醸成し、地域に貢献できる人材の育成を図る。

また、地域貢献活動などにより地域に活力をもたらし、移住促進に向けた施策や地域活性化の施策を展開できるよう、活力ある教育活動を展開する。

そして、地域の方々から信頼され、地域内の中学生が行きたいと思う学校づくりを推進し、地域内の中学校からの進学率向上を目指す。

また、地元自治体と連携しながら振興策に取り組み、地域外からの生徒の確保にも努める。

(ウ) 条件

教育課程の見直しや、学校・地域による振興策の取組によっても、平成33年度及び平成34年度において、窪川高等学校の入学者が2年連続して20人に満たない状況になった場合又は四万十高等学校の入学者が2年連続して20人に満たない状況になった場合、窪川高等学校と四万十高等学校との統合を行い、教育の質の向上に必要な対策を講じることとする。

なお、入学者が最低規模（20人）を満たすだけでなく、できるかぎり定員を充足するように、県教育委員会が、PDCAを徹底しながら、教育課程や、学校・地域の振興策の取組について改善・充実を図り、教育効果が得られているか、継続して検証を行うものとする。

（2）分校

高知追手前高等学校吾北分校と中村高等学校西土佐分校について

（対応方針）

高知追手前高等学校吾北分校と中村高等学校西土佐分校については、基本的に継続する。

考え方

分校の「2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する」としている最低規模の基準については、「県立高等学校再編振興計画」策定までの協議内容を踏まえると、基準としては尊重するが、分校は小規模ということが前提になっていることから、本校との連携、分校としての活性化策、地域からの支援などを含め、「後期実施計画」の実施期間（平成31年度～平成35年度）中は、その取組の成果を検証しながら、2つの分校については、基本的に継続する。

（3）定時制

（対応方針）

定時制については、基本的に継続する。

考え方

定時制については、基本的に「本校」や「分校」と最低規模についての考え方が違っており、定時制は、規模の重要性ということよりも、弱い立場にある生徒にとっての学びのセーフティーネットとしての側面を重視する必要がある。

よって、「学校全体の生徒数が20人以上」としている最低規模の基準については、望ましいという数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制は、維持すべきである。

なお、維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。

現状、最低規模を下回っている定時制は複数あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、「後期実施計画」の実施期間（平成31年度～平成35年度）中は、募集停止することなく基本的に継続する。

4 共通した項目について

(1) 最低規模の特例校

ア 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。

※対象校：室戸高等学校、嶺北高等学校、佐川高等学校、窪川高等学校、檜原高等学校、四万十高等学校、清水高等学校

イ 不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模とする。

※対象校：中芸高等学校、城山高等学校、高岡高等学校、大方高等学校

(2) 進学拠点校

自校の生徒の学力向上や進路指導だけでなく、その成果を他の高等学校にも普及することで、進学指導力を向上させる牽引校として位置付けている。(県教育委員会が「前期実施計画」で定めた6校に、「後期実施計画」において2校を追加)。

- ・「前期実施計画」からの対象校：安芸高等学校、高知追手前高等学校、高知小津高等学校
高知西高等学校(平成35年度統合完了)
高知国際高等学校(平成33年度開校)、中村高校
- ・「後期実施計画」において追加する対象校：山田高等学校、須崎総合高等学校

(3) 中山間地域の学校に共通する取組

- ・ICTの活用等により4年制大学への進学希望にも対応できる学習環境の整備や、社会性の育成を図る。
- ・地元中学校との連携を更に向上させ、中学生にとって魅力ある取組や学校づくりを行い、地元中学校からの進学率を更に向上させる振興策に取り組む。
- ・地元自治体との連携を図り、特色ある学校づくりを行うことで、地元中学校はもとより地域外の中学生が入学したいと思う振興策を展開する。
- ・県としては、国の指定事業(ICTの活用や地域との協働による高等学校教育改革推進事業など)について、積極的に活用する方向で取り組んでいく。

※中山間地域の学校

過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校(県教育委員会が「前期実施計画」で定めた本校7校に、「後期実施計画」において分校2校を追加)。

- ・本校7校：室戸高等学校、嶺北高等学校、佐川高等学校、窪川高等学校、檜原高等学校、四万十高等学校、清水高等学校
- ・分校2校：高知追手前高等学校吾北分校、中村高等学校西土佐分校

(4) 総合学科に共通する取組

- ・県教育委員会協議会(地域会)において、「総合学科は何なのかよく分からない」という意見があったことから、総合学科の魅力や特色である「多様な科目があり、その中から自分の興味や関心に応じて科目選択できること」や「幅広い分野を少数で学ぶことができること」などについて、中学生やその保護者等に広く広報し、理解してもらうことが必要である。
- ・広報においては、多様な手法や媒体を活用して周知していくことも必要であるが、体験学習や説明会の実施に加え、文化(学園)祭などの地域の方々や中学生等が集う学校行事を活用して、総合学科の内容について理解してもらう取組を実施したり、実際に高校生が中学校を訪問し、中学生に教育内容を説明したり、授業体験してもらう出前授業なども実施することで、より具体的で実効性のある広報活動に努めることとする。

(5) 産業系専門学科に共通する取組

「高知県産業振興計画」や県の施策、担い手の育成につながるキャリア教育の実施や、先進技術の手法、GAP※や HACCP※などの国際基準の認証取得のために地元企業等と連動した取組を推進する。

(6) 学びのセーフティネットの体制をより充実させた本校に共通する取組

全ての学校において、義務教育段階の基礎的、基本的学力が身に付いていない生徒や、不登校や中途退学を経験した生徒や発達障害のある生徒等にも、適切でより良い教育を実践するため、校内支援委員会等の支援体制や外部機関との連携体制を整えること。

また、校外の研修会に参加した教員が理解を深めて、講師として校内研修が実施できるようにするなどの研修体制を整えることとしている。

そうした中でも、「前期実施計画」において、県全体の状況を考慮し、3校を柔軟な教育課程の運用やきめ細かな支援が可能な学校として配置することとし、平成28年度から全日制単位制※への改編を実施した。

〔対象校〕城山高等学校、高岡高等学校、大方高等学校

〔取組〕・学び直しのプログラムの開発・実践

- ・柔軟な教育課程の運用
- ・きめ細かな支援を行うための体制の整備や教職員の指導力向上

(7) 定時制（夜間部）〔多部制単位制（夜間部）を含む〕に共通する取組

- ・働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行う。
- ・社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する取組を充実する。
- ・生徒の居場所づくりの取組を行う。
- ・学び直しの機会を増やすための、前期・後期の2回の入学機会を提供する制度について、情報収集などを行い、その在り方や導入の有無について検討する。

5 学校の振興に向けた新たな（又は拡充する）取組について

本実施計画では県内を東部、中部、北部、高吾、幡多の5つの地域に分け、各学校を下表のとおり位置付けた。

地 域	学 校 名
東部地域	室戸高等学校、中芸高等学校、安芸中学校・高等学校、安芸桜ヶ丘高等学校
中部地域	城山高等学校、山田高等学校、高知農業高等学校、高知東工業高等学校 岡豊高等学校、高知東高等学校、高知南中学校・高等学校、高知工業高等学校 高知追手前高等学校、高知丸の内高等学校、高知小津高等学校、高知北高等学校 高知西高等学校、高知国際中学校・高等学校、伊野商業高等学校、春野高等学校 高岡高等学校、高知海洋高等学校
北部地域	嶺北高等学校、高知追手前高等学校吾北分校
高吾地域	須崎総合高等学校、佐川高等学校、橋原高等学校、窪川高等学校、四万十高等学校
幡多地域	大方高等学校、幡多農業高等学校、中村中学校・高等学校、中村高等学校西土佐分校 宿毛工業高等学校、宿毛高等学校、清水高等学校

※この後記載する地域別の各校の「振興策の取組」の記載について

- ・新たな取組 ⇒ (新)
 - ・拡充・充実する取組 ⇒ (拡)
 - ・統合に関する取組 ⇒ (統)
- 全日制や定時制（昼間部）の記載項目の内容は上から、「学力向上・進路保障」、「教育内容」、「部活動の活性化」、「地域等との連携」、「その他」であり、定時制（夜間部）と通信制は、「学力向上・進路保障」、「生徒支援体制」、「教育内容」、「地域との連携」である。
ただし、各校にこの項目内容が全て記載されている訳ではない。

(1) 東部地域

【東部地域】は、「室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村」とする。

<公立中学校卒業生数の推移>

	H15.3(実績)	H25.3(実績)①	H30.3(実績)②	H35.3(推計)③	③-②
東 部 地 域	594	390	350	303	△47

<入学者の状況（全日制及び多部制昼間部）>

	H15			H25			H30		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
室戸高等学校	160	107	66.9%	120	41	34.2%	80	20	25.0%
中芸高等学校	80	44	55.0%	40	21	52.5%	40	19	47.5%
安芸高等学校	200	151	75.5%	160	108	67.5%	120	114	95.0%
安芸桜ヶ丘高等学校	120	106	88.3%	120	40	33.3%	80	31	38.8%
計	560	408	72.9%	440	210	47.7%	320	184	57.5%

東部地域の中学校卒業生数は、平成30年3月には350人と、5年前に比べると40人減少（10.3%減）しており、平成35年3月には現在より更に47人減少（13.4%減）し、303人と推計されている。

東部地域では、地域外の高等学校へ進学する生徒が多く、充足率も低下している。

今後、生徒数の減少を見据えながら、地域における教育活動を充実させていく必要がある。

学校が小規模化していく中で、東部地域において適正規模（4学級以上）を維持した中核的な学校が必要であることから、統合することで、4学級以上の学校規模の高等学校を設置し、その維持に努める必要がある。

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
1	室戸高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 様々な学習ニーズのある生徒へのきめ細かい指導ができる効果的な教育課程を編成し、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑨総合学科の見直し 総合学科については、現在の4系列から3系列に教育課程を見直し、その教育内容やメリットを中学生やその保護者等に理解してもらうように広報活動を更に推進する。 なお、平成30年度を起算年として、3年連続して入学者が40人に満たない状況になった場合、単位制普通科への改編を検討する。</p> <p>⑩女子硬式野球部の活性化 全国ベスト4を目指し、地域からの支援も得ながら指導体制を強化する。また、地域外からの生徒数確保のために寮の活用を図る。</p> <p>⑪ジオパークを生かした学習や交流 地域理解と地域の課題発見解決学習を行う「産業社会と人間※（室戸学）」と「ジオパーク学」を更に充実させる。また、国内の世界ジオパーク指定地域の高等学校との交流活動も実施する。</p> <p>⑫地域・中学校との連携 地域のイベントや行事への協力などの地域貢献活動、中学校との授業や学校行事、部活動（サッカー、バスケットボール）での交流をこれまで以上に充実し、地元中学校からの進学率の向上を図る。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑬学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する。具体的には、三修制※を導入する。</p> <p>⑭地域に開かれた教育の提供 地域の生涯学習の場として、聴講生※用の講座を今後も開設するにあたり、より多くの地域住民が参加できるよう、講座開催に関する広報を充実させる。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
2	中芸高等学校	<p>【昼間部】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切なきめ細かな支援を通じて、教育活動の充実を図るとともに、ポートフォリオ等※の作成を行い、その活用を通じて、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧「中芸学」を通じた地域貢献 「中芸学（中芸地区をフィールドとした地域課題発見解決学習）」の取組を更に充実させるとともに、この活動を通して、生徒の地域貢献の意識を醸成し、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 不登校経験や発達障害のある生徒等に柔軟な対応ができる支援体制を整えた東部地域の学校として、地域からのニーズや期待に応える教育活動の充実を図るため、同居する山田養護学校田野分校からの専門的な助言や指導を生かした取組を更に推進する。</p> <p>⑨「通級による指導」の導入 高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育として、国の進める「通級による指導※」を導入し、発達障害等のある生徒への支援体制を構築するとともに、個別支援が行えるカリキュラムの充実を図る。</p> <p>【夜間部】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する。具体的には、1時間目の授業前の「学び直し」授業や、8月の「学び直し」週間の取組を実施し、その内容の充実を図る。</p> <p>⑧地域に開かれた教育の提供 地域の生涯学習の場として、聴講生用の講座を今後も開設するとともに、聴講生と在校生の交流活動等も充実させ、地域から必要とされる学校づくりを推進する。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
3	安芸高等学校 安芸中学校	<p>⑧進学拠点校としての取組 東部地域の進学拠点校として、生徒の国立大学や難関私立大学への進学を実現できる支援体制を充実させるとともに、習熟度別学習や大学入試改革に対応する授業改革を推進し、学力の定着を図る。</p> <p>⑨6年間の中高一貫教育の充実 併設型中高一貫教育校として、6年間の教育内容・教育活動を更に充実させるとともに、キャリア教育※(職場体験や高等学校体験授業など)にも力を入れ、将来、東部地域を支え貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>⑩部活動の活性化 東部地域の「運動部活動強化拠点校(平成31年度までの指定)※」として、充実した取組を行う。併せて、地域の強みや伝統を生かした運動部・文化部の活性化を図る。 〔中学校〕陸上競技、体操競技、サッカー、弓道、吹奏楽、書道 競技かるた 〔高 校〕陸上競技、体操競技、卓球、男子バスケットボール 女子バレーボール、剣道、ソフトテニス、サッカー、弓道 野球、吹奏楽、書道、競技かるた</p> <p>⑪統合1 平成35年度に安芸桜ヶ丘高等学校と統合することで適正規模を維持した学校を設け、東部地域における活力ある拠点校とする。なお、南海トラフ地震による津波への対応を踏まえて、統合後の学校は、安芸桜ヶ丘高等学校の敷地に置く。</p> <p>⑫統合2 統合に向け、平成34年度入学生から新たなコース制を実施し、特に東部地域を支える人材育成の取組として、充実した内容の公務員講座を開設する。 ※統合する学校の在り方などについては、5ページと巻末資料44ページ参照</p>
4	安芸桜ヶ丘 高等学校	<p>⑬工業科の取組 ものづくり競技会やデザインコンペに積極的に参加し、「ものづくり」の取組を推進する。また、資格取得を促す授業や補習も充実させ、時代に即した技術者等の育成に努めるとともに、進路保障を確実にを行う。</p> <p>⑭商業科の取組 「商い甲子園」や「桜市」などへの参加も含め、地場産業や地域観光の振興に寄与する、情報発信や商品開発ができる商業人材の育成に努めるとともに、進路保障を確実にを行う。</p> <p>⑮「東部地域」活性化の取組 産業系専門学科の強みを生かし、東部地域の市町村や地域の特産物などを題材にした活動や地域おこし活動、地域貢献の取組を推進し、地元産業の活性化に貢献する産業を担う人材の育成に努める。</p> <p>⑯統合1 平成35年度に安芸高等学校と統合することで適正規模を維持した学校を設け、東部地域における活力ある拠点校とする。なお、南海トラフ地震による津波への対応を踏まえて、統合後の学校は、安芸桜ヶ丘高等学校の敷地に置く。</p> <p>⑰統合2 安芸高等学校との統合を見据えた学科改編を平成34年度に行う。 ・工業科は1科2専攻：「機械・土木科(案)」(機械専攻、土木専攻) ・商業科は1科：「商業探究科(案)」 ※統合する学校の在り方などについては、5ページと巻末資料44ページ参照</p>

(2) 中部地域

【中部地域】は、「香南市、香美市、南国市、高知市、いの町（旧伊野町）、土佐市」とする。
 ※いの町（旧吾北村、旧本川村は【北部地域】に区分している。）

<公立中学校卒業生数の推移>

	H15. 3 (実績)	H25. 3 (実績) ①	H30. 3 (実績) ②	H35. 3 (推計) ③	③-②
中部地域	4,208	3,587	3,340	3,089	△ 251

<入学者の状況（全日制及び多部制昼間部）>

	H15			H25			H30		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
城山高等学校	80	37	46.3%	80	48	60.0%	80	29	36.3%
山田高等学校	200	158	79.0%	200	113	56.5%	200	106	53.0%
高知農業高等学校	280	234	83.6%	240	177	73.8%	240	203	84.6%
高知東工業高等学校	200	171	85.5%	200	152	76.0%	160	104	65.0%
岡豊高等学校	400	402	100.5%	320	305	95.3%	320	305	95.3%
高知東高等学校	270	270	100.0%	230	225	97.8%	230	230	100.0%
高知南高等学校	240	240	100.0%	240	218	90.8%	240	213	88.8%
高知工業高等学校	280	269	96.1%	280	265	94.6%	280	268	95.7%
高知追手前高等学校	280	286	102.1%	280	280	100.0%	280	281	100.4%
高知丸の内高等学校	230	195	84.8%	180	180	100.0%	180	171	95.0%
高知小津高等学校	320	319	99.7%	280	279	99.6%	280	266	95.0%
高知北高等学校	120	120	100.0%	80	80	100.0%	80	79	98.8%
高知西高等学校	320	320	100.0%	280	280	100.0%	280	280	100.0%
伊野商業高等学校	200	198	99.0%	160	159	99.4%	160	120	75.0%
春野高等学校	160	137	85.6%	160	152	95.0%	160	122	76.3%
高岡高等学校	80	65	81.3%	80	47	58.8%	80	30	37.5%
高知海洋高等学校	120	66	55.0%	80	66	82.5%	80	36	45.0%
計	3,780	3,487	92.2%	3,370	3,026	89.8%	3,330	2,843	85.4%

※高知国際高等学校は、平成33年4月に開校するため上記表中での記載なし。

中部地域の中学校卒業生数（高知大学附属中を含む）は、平成30年3月には3,340人と、5年前に比べると247人減少（6.9%減）しており、平成35年3月には現在より更に251人減少（7.5%減）し、3,089人と推計されている。

高知市の高等学校は、他の地域から進学する生徒も多く、充足率も維持されているが、香美市、香南市、土佐市、いの町などの高等学校になると充足率は低くなっている。このまま、高知市への生徒の集中が続くと周辺地域の高等学校の入学者数の減少に拍車がかかり、学校運営への支障が懸念される。よって、こうした周辺地域の学校においては、今後、地域における教育活動を充実させていくことや、魅力ある学科やコースを設けるなど、教育内容の充実を図る必要がある。

一方、高知市においては、平成33年度から高知国際高等学校の開校に伴う統合校の募集停止を行うことから、その影響も見据えながら、中部地域の各校の入学定員の見直しについては、検討していく必要がある。

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
5	城山高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 生徒へのきめ細かい指導ができるように教育課程を編成する。具体的には、学び直しの学校設定科目の設置や、進路希望に応じた科目選択を充実し、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧福祉教育の推進 2年次からのコースである「社会福祉型」において、「介護職員初任者研修修了者※」の資格取得を目指す教育内容を更に充実させる。</p> <p>⑧地域・中学校との連携促進 地域のイベントへの積極的な参加など、地域貢献活動や中学校との連携を強化する。</p> <p>⑧支援体制の充実 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整え、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒へのきめ細かな支援を通じて、教育活動の更なる充実を図る。</p> <p>⑨「通級による指導」の導入 高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育として、「通級による指導」を導入し、発達障害やその疑いのある生徒への支援体制を構築し、個別支援が行えるカリキュラムの充実を図る。</p>
6	山田高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑨進学拠点校として指定 中部地域の東部（香長地区）の進学拠点校として、地域をテーマとした課題発見解決学習や授業における探究的な学習を通して、学校全体として国公立大学への進学者数 50 人以上を目標に取り組む。</p> <p>⑨「探究科」新設 「香美市学園都市構想」を踏まえ、香美市の小学校・中学校で培ってきた探究的な学習を学校全体としても更に発展・深化させる。その中で、高知工科大学との共同プログラム開発を含め、高大接続を図るための魅力ある「探究科（案）」を新設し、平成 32 年度から開設する。</p> <p>⑧「普通科」の取組 進路希望別に特色ある教育課程を設け、現在の課題発見解決学習を更に進めるとともに、進学補習の強化やオンデマンド教材を活用した取組等の指導體制の充実を図る。</p> <p>⑨「商業科」の取組 地域や地元企業と連携・協働し、高校 3 年間を通した「起業家育成プログラム」を開発・実践し、地域産業の担い手を育成する。また、高知工科大学経済・マネジメント学群との連携を推進するとともに、グローバル化・高度情報化に対応できる資質能力やスキルの育成に向けた指導體制の充実を図る。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する。具体的には、職場訪問や職業体験を実施するとともに、実社会で役立つ資格取得も推進する。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 生徒会を中心とした学校行事の活性化や、生徒の発表機会を積極的に設けることで、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
7	高知農業 高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 基礎学力の定着と専門力の育成の充実を図り、就職と国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実に努める。</p> <p>⑧「農業を学ぶ」「農業で学ぶ」 本県の農業教育を担う中心的な学校として、「農業を学ぶ」ことによる農業後継者の育成や農業経営と併せて、「農業で学ぶ」という観点から、農業のもつ教育力を最大限に活用し、動植物の飼育栽培を通して、命の尊厳や豊かな心、感謝の心を育み、倫理観や規範意識などを重視した人材の育成に努める。</p> <p>⑧「新たな農業を学ぶ」 新しい生産技術やグローバル化による競争力、六次産業化等※に対応できる高い専門技術や教養を身に付けることができるよう、農業生産工程管理（GAP）教育や、食品製造に関する HACCP 教育の内容の充実に取り組む。</p> <p>⑧関係機関や地域との連携 地域の農業支援センターとして、地元農家や農業関連機関等との連携推進、農業大学校や林業大学校との連携強化を図り、これまで蓄積した教育力を地域に還元する取組を充実させる。</p>
8	高知東工業 高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 基礎学力の定着と社会性の育成を図るとともに、きめ細かい指導ができる効果的な教育課程を編成し、就職と国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の充実に努める。</p> <p>⑧産業を担う人材育成 機械系と電気系に特化した工業高等学校として、充実した設備を駆使した高度で個性的なものづくりの実践により、専門的な知識や技能を身に付け、実習や課題研究等により問題解決能力を備えた志ある産業を担う人材の育成に努める。</p> <p>⑧部活動の活性化 ものづくり部活動や運動部活動全般の活性化を図り、学級経営や授業改善と連携を取ることで、学力向上や人間性の資質・能力向上に取り組む。</p> <p>⑧各所との連携 学校（小中高大）や地元企業、関係機関等との連携を充実させ、その取組を通して、「ものづくり」の魅力を広く地域に発信し、社会に貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に向け、就労支援の取組を更に充実させる。</p> <p>⑧キャリア教育の推進 基礎学力の定着とともに、職業観や勤労観を身に付けるキャリア教育の取組を強化し、一人一人へのきめ細かな教育活動の更なる充実に努める。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
9	岡豊高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 多様な学習を可能にする教育課程の特色を生かして、生徒の進路希望に応じた学びの提供を充実させ、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧公務員講座の充実 外部講師による公務員講座を拡充し、公務員として地域を支える人材を輩出する指導体制を強化する。</p> <p>⑧部活動の活性化 中部地域の「運動部活動強化拠点校（平成31年度までの指定）」であり、また、体育コース・芸術コースの専門性を生かして、運動・文化の両分野にわたり、部活動を更に活性化して、心身を鍛え、個性を伸長し将来社会で活躍できる人材の育成に努める。</p> <p>⑧学校改革の推進 学校の特色や強みを生かした将来の学校の在り方や、部活動の活性化にもつながるコース制も含めた教育課程の見直しについて検討する。</p>
10	高知東高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 総合学科の特徴である、系列によるカリキュラムを生かした教科指導の実践や、「産業社会と人間」、「総合的な学習(探究)の時間『立志』」の取組を生かし、進路指導を充実させ、多様な進路希望に対応する。</p> <p>⑧総合学科での新たな教育課程の編成 幅広い選択科目から進路にあった科目を学習する総合学科の特色を生かし、大学進学など生徒の多様な進路希望に合った科目を分かりやすく選択できる効果的な教育課程を編成する。</p> <p>⑧広報活動の充実 総合学科について、中学生やその保護者等の理解を促進するための体験入学、中学生への説明会等の広報活動を更に推進する。</p> <p>⑧看護科の取組 県内唯一の公立高等学校の看護科として、専攻科とあわせて5年間の一貫教育による看護師養成を行い、医療機関と連携した実習や授業内容の充実を図ることにより、将来、地域医療を支える看護師として活躍できる人材の育成に努める。</p> <p>⑧地域との連携 98豪雨での被災の記憶を継承し、それを生かした防災教育の推進や、地元の地域行事への協力・参加を通じた地域貢献活動を更に推進する。</p>

学 校 名		「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
11	高知南高等学校 ・ 高知南中学校	<p>⑧学力向上・進路保障 これまで取り組んできたキャリア教育と国際理解教育の更なる充実を図り、将来の進路を実現できる確かな学力とともに、語学力や課題解決能力の習得を図り、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧グローバル教育の推進 将来、グローバル人材として活躍できる人材の育成を目指し、探究型学習と英語教育プログラムを更に充実させ、グローバル教育※を推進する。</p> <p>⑧部活動の活性化 これまでに全国大会に出場してきた部活動はもちろん、その他の部活動についても、統合に向けた移行期間中においても十分な指導が行えるよう指導体制の充実を図る。</p> <p>⑧統合1 平成35年度に高知国際中学校・高等学校として統合完了となる。 （「前期実施計画」で決定）</p> <p>⑧統合2 平成33年3月以降の高知南中学校の卒業生については、基本的に高知国際高等学校の普通科に入学する。（「前期実施計画」で決定）</p>
12	高知工業 高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 工業教育の牽引役として、就職と国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実努める。</p> <p>⑧産業を担う人材育成 高知工科大学と連携した探究型学習などを行うとともに、工業科の拠点校として、充実した校内外における体験的・課題解決的な学習を通して、地域や我が国の工業技術の発展やものづくりに貢献する産業を担う人材を育成する。</p> <p>⑧資格取得のための体制充実 高度な資格取得に向けた指導体制を充実させる。</p> <p>⑧部活動の活性化 中部地域の「運動部活動強化拠点校（平成31年度までの指定）」として、競技力の向上を図る取組や中学生の体験入部等を更に充実させ、部活動の振興を通じた特色ある学校づくりに取り組む。</p> <p>⑧企業や関係機関との連携 高度な先端技術の知識や技術の習得、進路選択に生かすキャリア教育として、課題研究や研究活動において、地元企業や関係機関と連携した取組を実施・強化する。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に向け、資格取得や就労支援の取組を更に充実させる。</p> <p>⑧リカレント教育※の充実 専修コース※や編入制度などを活用し、高い専門性を身に付けることや、高度な資格取得を更に支援する。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
13	高知追手前 高等学校	<p>④進学拠点校としての取組 県民の強い期待に応える進学拠点校として、学校内において教職員の教科指導力のレベルアップや進学指導体制を更に充実させ、難関大学を含む国公立大学や医学部への進学実績を向上させる。</p> <p>⑤主体的な生徒活動の充実 新たに生徒自らが情報収集・体験に出向く取組を導入するなど、課題解決型探究活動を充実させ、自他の幸福を目指す「志」の追求と実現に取り組むことができる生徒の育成に努める。</p> <p>④「レオプロジェクト」の充実 3年間の系統的キャリア教育プログラム『レオプロジェクト（「総合的な学習（探究）の時間」及び「LHR」）』のバージョンアップを図り、国際的に活躍できる人材の育成のみならず、我が国の科学技術の発展を支える人材や、地域を支え貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>④遠隔教育による吾北分校支援 「遠隔教育」の中核をなす学校として、遠隔授業に取り組み、吾北分校の学力向上など教育活動の充実を積極的に支援するとともに、小規模校等の教育活動を支援する。</p>
14	高知丸の内 高等学校	<p>④学力向上・進路保障 普通科の全日制単位制である幅広い教育活動を展開できる特色や、音楽科の専門性の強みを生かし、夢の実現に向かって、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する多様な進路の実現を図る。</p> <p>⑤論理的思考力を育む取組 「総合的な学習（探究）の時間」において、ICTも活用して論理的な思考力を育む取組を導入するなど、多種多様な選択科目の設定やそれによる少人数講座の利点、大学等との連携授業など単位制の特色を生かし、生徒の進路希望に応じた効果的な教育課程を編成する。</p> <p>④音楽科の取組 専門科目の学習や音楽大学と連携した授業の更なる充実により技術の向上を図るとともに、音楽活動を通じて豊かな感性をもった生徒の育成に努める。</p> <p>④部活動の活性化 実績ある文系（囲碁将棋、吹奏楽部等）・体育系（女子ソフトボール部、カヌー部等）の活動を更に充実させ、全国レベルでの入賞等を目指して取り組むことで、学校の魅力化を一層推進する。</p> <p>⑤大学や地域との連携 高知市の中心市街地、高知県立大学の真向かいに位置するという立地を生かし、それぞれとの連携を進めることで魅力ある学校づくりを一層推進するとともに、地域社会に貢献する意識と実践力を育成する。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
15	高知小津 高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 目標値を指標とした授業力の向上と、生徒同士の学びあい活動の充実などを通して、難関大学を含む国公立大学への進学実績を向上させる。</p> <p>⑧スーパーサイエンスハイスクール事業の充実 理数教育の拠点校として、スーパーサイエンスハイスクール事業に学校全体で取り組む体制を充実させ、グローバルに活躍できる人材の育成に努めるとともに、本県の理数教育を牽引する。</p> <p>⑧理数科の取組 理数科として、スーパーサイエンスハイスクール事業の中心的な役割を担うとともに、将来、理数系分野の技術者として活躍できる人材の育成に努める。</p> <p>⑧広報活動の充実 スーパーサイエンスハイスクール事業や理数科の取組について、広く中学生やその保護者等へ周知するための体験入学や発表会、実験講座などの広報活動を更に推進する。</p>
16	高知北高等学校	<p>【昼間部】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 多様なニーズのある生徒に応じたきめ細かな支援を行い、社会的スキルを向上させる学習や「学び直し講座」の取組を通して、生徒の希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 様々な学習歴をもつ生徒に対する学び直しの場としての役割を果たすとともに、スクールカウンセラー（SC）やソーシャルワーカー（SSW）との連携も含め、きめ細かな支援体制を更に充実させる。</p> <p>【夜間部】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 生徒会活動の活性化を図り、多様な生徒の居場所づくりの取組を充実させ、限られた時間を活用して学ぶ取組を更に推進することで、生徒の希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 単位制高等学校の特徴を生かし、少人数での授業の充実を図ることで、働きながら学ぶことや、様々な学習歴をもつ生徒に対する学び直しの場としての役割を果たすとともに、きめ細かな支援体制を更に充実させる。</p> <p>【通信制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 きめ細かいレポートの添削指導やユニバーサルデザイン※を意識したスクーリング※の改善に取り組み、計画的な学習を確実に継続できる生徒の育成に努める。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 若者サポートステーション※や各市町村の教育研究所等の外部機関と連携・協力を推進し、様々な学習歴をもつ生徒に対する支援体制を更に充実させる。</p>

	学校名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
17	高知西高等学校	<p>④進学拠点校としての取組 学習や評価を ICT 化する取組の充実や、グローバル教育の成果を生かし、難関大学を含む国公立大学への進学実績を向上させる。</p> <p>④グローバル教育の推進 地域や国際的な課題解決を目指す探究的な学習や英語教育を柱とする取組を充実させる。さらに、語学研修等の海外経験をjする機会などを通して、グローバル教育を更に推進する。なお、平成 31 年度で指定が終了するスーパーグローバルハイスクール事業※については、新たな国の指定事業を見据えながら、その成果を生かした取組を推進する。</p> <p>④統合 1 平成 35 年度に高知国際中学校・高等学校として統合完了となる。 (「前期実施計画」で決定)</p> <p>④統合 2 統合時において、伝統・実績のある部活動を継続・維持するためにも、部活動の更なる活性化を図るための指導体制を整える。</p>
18	高知国際 高等学校 高知国際中学校	<p>④進学拠点校としての取組 学校全体として、難関大学を含む国公立大学や医学部への進学者数 125 人以上の目標を達成するための授業実践と指導体制を整える。また、IB コースにおいては、国際バカロレア資格を生かした受験を想定し、国内外のグローバル化に重点を置く大学への進学に対応できる力を育成する。</p> <p>④グローバル教育の充実 グローバル教育の牽引校として、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校で取り組んできた探究型学習やキャリア教育を継承・推進し、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材の育成に努める。</p> <p>④国際バカロレア教育の推進 国際バカロレア (IB) ※の教育プログラムに基づいた教育活動を行い、外国の人々と協働できる高い英語運用能力と探究力や、バランスのとれた国際感覚と行動力を育成する教育活動の充実を図る。</p> <p>④国際バカロレア (IB) の認定 国際バカロレア (IB) のミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) ※は平成 32 年 8 月に、ディプロマ・プログラム (DP) ※は平成 33 年 4 月に認定校になることを目指す。〔平成 33 年 4 月 高知国際高等学校開校〕</p>
19	伊野商業 高等学校	<p>④学力向上・進路保障 基礎学力の定着と専門力の育成の充実を図り、就職と国公立大学等への進学にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実に努める。</p> <p>④商業教育の拠点校 商業教育の拠点校として、実習や資格取得の取組等を通じて、教育活動の更なる充実に努めるとともに、県内観光ビジネスへ貢献する取組を実践する。</p> <p>④教育課程の見直し 産業におけるビジネス教育の在り方を追究し、コース・プラン等の再構築を含め、社会に開かれた教育課程を実践する。</p> <p>④各所との連携 行政や大学、企業等との連携を更に強化し、地域の課題を発見し、ビジネス的な視点からその解決策を検討し行動する取組などを通じて、キャリア教育を推進し、働く意欲と能力を高める。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
20	春野高等学校	<p>㊦学力向上・進路保障 総合学科の特徴である、系列によるカリキュラムを生かした教科指導や、実践的な教育活動として取り組んでいる「なすことによって学ぶプロジェクト」を生かして、進路指導を充実させ、多様な進路希望に対応する。</p> <p>㊦総合学科の取組 総合学科の特性を生かした実践的・体験的な学習を通して、これからの社会を生き抜くために必要な基礎学力の定着と、自己管理能力を育成し、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>㊦広報活動の充実 総合学科の内容やメリットについて、中学生やその保護者等に理解してもらうために、学園祭など地域に開かれた行事を充実するとともに、そうした機会も活用して、学校の周知に関する広報活動を更に推進する。</p> <p>㊦各所との連携 これまで培ってきた農業教育をはじめ各系列の特色を生かし、進路選択に生かすインターンシップ等のキャリア教育や、地域連携や商品開発等の取組として、各事業所、施設、保育園等との連携を充実させる。</p>
21	高岡高等学校	<p>【全日制】</p> <p>㊦学力向上・進路保障 国公立大学等への進学から就職まで、幅広い進路希望先に応える効果的な教育課程の編成と進路指導体制の充実に努める。特に、少人数の利点を生かし、生徒個々の進路希望先に合わせた指導を行う。</p> <p>㊦キャリア教育の推進 「総合的な学習（探究）の時間」で、地域や行政との連携をより強め、生徒自身の人生設計や将来ビジョンを養い、現在の学ぶ意欲につながるキャリア教育を推進する。</p> <p>㊦地域との連携 高校生が地元小中学校に出向いて出前授業をしたり、地域イベントに積極的に参加するなど、地域貢献できる機会を増やし、学校の広報などもあわせて実施する。</p> <p>㊦生徒支援体制の充実 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整え、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒へのきめ細かな支援を通じて、教育活動の更なる充実を図る。</p> <p>【定時制】</p> <p>㊦学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する。具体的には、地元企業へのインターンシップなどの活動を更に充実させる。</p> <p>㊦生徒支援体制の充実 校内外の連携による支援体制を更に充実させ、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
22	高知海洋 高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 基礎学力の定着と専門力の育成の充実を図り、就職と専攻科や国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実に努める。</p> <p>⑧教育内容の充実 食品・航海・機関のコース別インターンシップや、土佐海援丸の航海実習などの実践とそれらの内容の充実を図り、水産業を担う人材としての職業観や勤労観の育成に努める。</p> <p>⑧地域との連携 卒業後の進路選択や技術の習得、地域産業の担い手育成のための資格取得、地域の活性化に貢献する活動として、地域の水産資源を活用した商品開発や地元企業と連携した体験学習等の取組を更に充実させる。</p> <p>⑧小中学校との連携 体験航海や体験授業などにより小中学校との連携を図り、児童生徒が水産分野に興味・関心をもつことができる取組を実践し、未来の水産業に従事する人材育成につなげる。</p> <p>※南海トラフ地震への対応については、3ページ参照</p>

3 北部地域

【北部地域】は、「本山町、土佐町、大川村、大豊町、いの町（旧吾北村、本川村）」とする。
 ※いの町（旧伊野町）は、【中部地域】に区分している。

<公立中学校卒業生数の推移>

	H15.3 (実績)	H25.3 (実績) ①	H30.3 (実績) ②	H35.3 (推計) ③	③-②
北部地域	182	104	76	60	△ 16

<入学者の状況（全日制）>

	H15			H25			H30		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
嶺北高等学校	80	54	67.5%	80	44	55.0%	80	17	21.3%
高知追手前高等学校 吾北分校	40	19	47.5%	40	21	52.5%	40	6	15.0%
計	120	73	60.8%	120	65	54.2%	120	23	19.2%

北部地域の中学校卒業生数は、平成30年3月には76人と、5年前に比べると28人減少（26.9%減）しており、平成35年3月には現在より更に16人減少（21.1%減）し、60人と推計されている。

北部地域では、地域外の高等学校へ進学する生徒も多く、充足率も低くなっている。

今後、生徒数の減少を見据えながら、魅力ある学科やコース、教育課程を設けるなど、教育内容の充実を図る必要がある。

	学校名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
23	嶺北高等学校	<p>新学力・進路保障 地元自治体からの学力向上に関する支援や、学校として取り組む「オンライン英会話スクール」の導入等の学力向上対策により、国公立大学等への進学から就職まで、生徒の希望する進路の実現を支援する。</p> <p>拡遠隔教育の推進 「遠隔教育」等を通じて、生徒の進路希望に応じた選択科目の設置など、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供することで、教育活動の更なる充実を図る。</p> <p>新カヌー部の活性化 中学生の体験活動や、地元自治体の高等学校支援につながる取組（町営寮や地域外生徒サポート制度の整備）などと連携して、地域内外からの生徒受け入れ体制を整備し、全国大会での上位入賞を目指す。</p> <p>新地元自治体と連携した取組の推進 地元自治体による「公設町営塾」、「オンライン英会話スクール」の開校、「海外研修」などの取組と連携して、学校の魅力化を推進する。</p> <p>拡地域との連携 連携型中高一貫教育を推進するとともに、地域との連携を更に発展させ、地域の活性化に向けた取組を推進する。また、生徒の自主活動組織（高等学校生の地域貢献活動）により、生徒の積極性、自主性を育成する活動の充実を図る。</p>
24	高知追手前 高等学校 吾北分校	<p>新学力向上・進路保障 ICTの活用により学校内において個々の生徒が自由に学習できる環境整備や教育課程の編成を行い、国公立大学等への進学から就職まで、生徒の希望する進路実現を支援する。</p> <p>新部活動の活性化 ソフトボールとバドミントンにおいて、地元自治体との連携による中高合同の部活動の強化等を通じて、県大会優勝を目標に活性化を図る。</p> <p>新地域との連携 地域の特性を生かした交流活動や地域学習を通じて、地域の唯一の高等学校としての役割を見える化する。また、地元中学校と分校の相互の教員による教育課程に位置付けられた交流授業を実施し、教育活動の充実を図る。なお、地元自治体からの高等学校支援の取組（地元で生活できる施設整備の検討や通学できる交通機関の確保）などと連携し、地域外からの生徒受け入れ体制を整備する。</p> <p>拡本校と分校の連携 本校と分校の相互交流については、授業のみならず、学校行事や課外活動等での生徒間の交流を更に推進する。</p> <p>拡遠隔教育の推進 高知追手前高等学校本校との「遠隔教育」を通じて、生徒の進路希望に応じた教育機会の確保と、多様かつ高度な教育に触れる機会を提供し、教育活動の更なる充実を図る。</p>

4 高吾地域

【高吾地域】は、「須崎市、仁淀川町、中土佐町、日高村、佐川町、越知町、梶原町、津野町、四万十町」とする。

<公立中学校卒業生数の推移>

	H15.3(実績)	H25.3(実績)①	H30.3(実績)②	H35.3(推計)③	③-②
高吾地域	1,007	741	595	487	△108

<入学者の状況(全日制)>

	H15			H25			H30		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
須崎工業高等学校	120	83	69.2%	160	108	67.5%	120	98	81.7%
須崎高等学校	200	187	93.5%	160	109	68.1%	120	75	62.5%
佐川高等学校	120	103	85.8%	120	45	37.5%	80	38	47.5%
窪川高等学校	120	89	74.2%	80	27	33.8%	80	25	31.3%
梶原高等学校	80	43	53.8%	80	35	43.8%	80	41	51.3%
四万十高等学校	80	52	65.0%	80	23	28.8%	80	18	22.5%
計	720	557	77.4%	680	347	51.0%	560	295	52.7%

※須崎総合高等学校は、平成31年4月に開校するため上記表中での記載なし。

高吾地域の中学校卒業生数は、平成30年3月には595人と、5年前に比べると146人減少(24.5%減)しており、平成35年3月には現在より108人減少(18.2%減)し、487人と推計されている。

高吾地域では、地域外の高等学校へ進学する生徒が多く、充足率も低下している。

今後、生徒数の減少を見据えながら、地域における教育活動を充実させていく必要がある。

また、学校が小規模化していく中で、地理的な側面も配慮しながら、高等学校教育の質の確保をしていく必要があることから、統合も含めた学校の在り方や入学定員の見直しについては、検討していく必要がある。

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
25	須崎総合 高等学校	<p>【全日制】</p> <p>①平成31年4月開校 須崎工業高等学校と須崎高等学校を統合し、平成31年4月に開校。統合に伴い、高吾地域の進学や就職、産業教育、部活動の拠点校として、充実した教育活動を展開する。</p> <p>②普通科の取組 進路希望に対応する魅力あるコース別の教育課程を編成し、特に進学については、進学拠点校として進学補習も含め指導体制の充実を図り、国立大学への進学数30人以上を目標に取り組む。</p> <p>③工業科の取組 ものづくりや資格取得の取組、地域と連携した取組等を通じて、キャリア教育を更に推進し、産業を担う人材の育成を目指し、就職を主とした進路希望の実現を図る。</p> <p>④部活動の活性化 高吾地域の部活動拠点校として、伝統・実績のある部活動はもちろん、多様な部活動の活動を継続・維持するとともに、更なる活性化を図るための指導体制を整える。</p> <p>⑤地域との連携 ドラゴンカヌー等の地域おこし活動や防災教育を進め、地域と連携した取組の充実を図るとともに、将来、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑥学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に向け、進学・就労支援の取組を更に充実させる。</p> <p>⑦生徒支援体制の充実 学校行事や体験学習、相談体制を更に充実させ、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
26	佐川高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 地域の自治体からの学力向上に関する支援や、基礎学力の定着・向上の取組、遠隔教育システムの導入などを通して、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑨「さくら咲くプロジェクト」の推進 地域社会に貢献できる逞しさを備えた人材育成と、地域の活性化を目指し、ふるさと教育と地域課題学習としての取組である「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト～」を更に推進する。</p> <p>⑩部活動の活性化 地域の外部資源を生かした「天文地学部」を創部する。また、男子ソフトボール部については、全国大会優勝を目指し、クラブチームや大学生、日本代表との合同練習を実施するなど、部活動の活性化を図り、地域内外からの生徒数確保につなげる。</p> <p>⑪中学校との連携 地域の中学生在が進学したい魅力ある学校づくりを目的に、中学校と高等学校の教職員及び生徒の交流を計画する「中高代表者会」を創設し、具体の取組を実行していく。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑫学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に向け、個別指導体制を更に充実させる。</p> <p>⑬生徒支援体制の充実 地域のことを学習する「佐川学」の取組等により、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p>
27	窪川高等学校	<p>⑭学力向上・進路保障 地元自治体からの学力向上に関する支援や、コース制による指導など、多様なニーズのある生徒へのきめ細かな支援を通じて、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑮教育内容 地元自治体からの高等学校支援（公設町営塾や海外研修など）や遠隔教育システムの活用、県内外の大学と協働した取組などにより、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供する。</p> <p>⑯部活動の活性化 音楽部（目標：全国大会優勝）及び男子サッカー部（目標：県1部リーグへの昇格・定着）については、地元自治体や中学校とも連携し、一流の指導者を招聘して技術指導を行い部活動の活性化を図ることで、地域内外からの生徒数確保に努める。</p> <p>⑰地域との連携 「四万十町児童・生徒育成プラン（仮）」と連動し、四万十町の後期中等教育を支えるカリキュラムを開発するとともに、地域貢献の活動も更に充実させ、地域の活性化に寄与する学校づくりを推進する。</p> <p>※四万十町の2校の高等学校の在り方については、6ページ参照</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
28	禰原高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 小規模校の最大の利点である少人数を生かした授業を核に各種の補習、添削、面談等のきめ細かな指導や、遠隔教育システムを含む ICT の活用等を通して、国公立大学や難関私立大学への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧「YELL プロジェクト」の充実 地域の社会資源を活用しながら、地域学習として取り組んでいる「YELL プロジェクト」を更に充実させ、将来の自分の進路や仕事について考えられる力を育成するキャリア教育を推進する。</p> <p>⑧部活動の活性化 地域と連携して部活動を通しての魅力化も図り、特に、中学校との連携による活動を推進する。体育系では野球、アーチェリー、バスケットボール等、文化系では津野山神楽等の特色ある部活動を中心に成果を出す。なお、野球部については、地元自治体の支援と連携を図りながら強化に取り組む。</p> <p>⑧地域との連携 1 地元自治体からの高等学校支援（海外研修や各取組への補助など）を生かしながら、地域の中学校との部活動や授業交流を推進する。また、地域貢献活動として、地元の特産品を生かした商品開発や地域行事への共同参加を積極的に推進する。</p> <p>⑧地域との連携 2 地域と地域外の交流施設としての活用も含め整備計画を進めている地元自治体の取組（寮の整備）について支援を行い、地域外からの生徒受け入れ体制の強化を図る。</p>
29	四万十高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 地元自治体からの学力向上に関する支援や、コース制による指導など、多様なニーズのある生徒へのきめ細かな支援を通じて、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧教育内容 地元自治体からの高等学校支援（公設町営塾や海外研修など）や遠隔教育システムの活用などにより、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供する。また、森林組合や農業関連事業所へのインターンシップ、地域との連携を通して、農業・林業技術者や地域産品の加工・販売業など地域の産業への関心を深める取組を充実させる。</p> <p>⑧部活動の活性化 音楽部及び男子ソフトボール部については、全国大会優勝を目指し、地元自治体や中学校と連携し、一流の指導者を招聘して技術指導を行い部活動の活性化を図ることで、地域内外からの生徒数確保に努める。</p> <p>⑧地域との連携 1 「四万十町児童・生徒育成プラン（仮）」と連動し、四万十町の後期中等教育を支えるカリキュラムを開発するとともに、地域貢献の活動も更に充実させ、地域の活性化に寄与する学校づくりを推進する。</p> <p>⑧地域との連携 2 連携型中高一貫教育を継続するとともに、小中学校 PTA など地域とともに生徒育成の取組等を通じて教育活動の充実を図り、生涯を通して学び・働き、将来、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>※四万十町の2校の高等学校の在り方については、6ページ参照</p>

5 幡多地域

【幡多地域】は、「宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町」とする。

＜公立中学校卒業生数の推移＞

	H15.3(実績)	H25.3(実績)①	H30.3(実績)②	H35.3(推計)③	③-②
幡多地域	1,117	817	701	570	△131

＜入学者の状況（全日制及び多部制昼間部）＞

	H15			H25			H30		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
大方高等学校	80	52	65.0%	80	35	43.8%	80	25	31.3%
幡多農業高等学校	160	145	90.6%	160	121	75.6%	160	126	78.8%
中村高等学校	240	234	97.5%	200	182	91.0%	200	158	79.0%
中村高等学校 西土佐分校	40	30	75.0%	40	7	17.5%	40	10	25.0%
宿毛工業高等学校	210	191	91.0%	160	114	71.3%	160	121	75.6%
宿毛高等学校	160	152	95.0%	160	110	68.8%	120	81	67.5%
清水高等学校	120	94	78.3%	80	74	92.5%	80	34	42.5%
計	1,010	898	88.9%	880	643	73.1%	840	555	66.1%

幡多地域の中学校卒業生数は、平成30年3月には701人と、5年前に比べると116人減少（14.2%減）しており、平成35年3月には現在より更に131人減少（18.7%減）し、570人と推計されている。

幡多地域では、地域外の高等学校へ進学する生徒は、他の地域に比べると少ないが、近年は増加しており、充足率は低下してきている。

今後、生徒数の減少を見据えながら、魅力ある学科やコース、教育課程を設けるなど、教育内容の充実を図る必要がある。

なお、入学定員の見直しについては、上記の充実策とあわせて検討していく必要がある。

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
30	大方高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 効果的な教育課程の編成や教育方法の改善による基礎学力の定着、商業コースによる科目選択や資格取得の取組を更に充実させ、国公立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑨女子サッカー部の創設 「地域密着型」の女子サッカー部を創設し、将来のワールドカップ・オリンピック選手等の育成を目指すため、地元自治体や中学校他との協働をもとに強化策を展開することで、地元内外からの生徒数確保にもつなげる。</p> <p>⑩地域との連携 コミュニティスクールとして、学校運営協議会を通じて行政機関等とも協働し、地域課題発見解決学習である「総合的な学習（探究）の時間」や「地域学」の取組を推進することで、将来、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>⑪防災教育の推進 生徒による主体的な防災委員会活動の充実、保小中高の連携による避難訓練の実施等に取り組み、地域貢献を視野に入れた防災教育を推進する。</p> <p>⑫生徒支援体制の充実 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整え、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒へのきめ細かな支援を通じて、教育活動の更なる充実を図る。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑬学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現を支援する。具体的には、ハローワーク四十と連携した取組を充実させる。</p> <p>⑭生徒支援体制の充実 若者サポートステーションと連携し、社会人に向けての講話やスキル獲得のための活動等を充実させ、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p> <p>【通信制】</p> <p>⑮学力向上・進路保障 生徒の学習ペースに応じた支援をするとともに、就職希望者には、若者サポートステーションの活用や職場体験等を実施し、進学希望者には、平日の進学補習を実施するなど、進路支援体制の充実を図る。</p> <p>⑯生徒支援体制の充実 若者サポートステーションや各市町村の教育研究所等の外部機関と連携・協力を推進し、様々な学習歴をもつ生徒に対する支援体制を更に充実させる。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
31	幡多農業 高等学校	<p>⑧学力向上・進路保障 学び直しから大学進学まで対応できる効果的な教育課程を編成し、基礎学力の定着と専門力の育成の充実を図り、就職と国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実に努める。</p> <p>⑨農業関係者の人材育成 幡多地域の農業教育の拠点校としての役割を担い、地域と連携した取組を積極的に行うとともに、専門的かつ高度な知識や技能を身に付けることのできる環境の整備を推進し、社会の変化や産業の動向に適應した次世代を担う農業関係者を育成する。</p> <p>⑩「新たな農業を学ぶ」 幡多地域の農業教育の拠点校として、次世代を担う農業関係者を育成することを目指し、新しい生産技術やグローバル化による競争力、六次産業化等に対応できる高い専門技術や教養を身に付けることができるよう、農業生産工程管理（GAP）教育や、食品製造に関する HACCP 教育の内容の充実に取り組む。</p> <p>⑪地域との連携 地域や関係機関と連携した積極的な取組を充実させ、地域産業を支える将来のスペシャリストを育成する。また、地域に根ざした学校づくりを進め、農業の教育力を生かした体験学習の受け入れや、地域でのボランティア活動やインターンシップを通して、幡多地域に学ぶ生徒の豊かな人間性を育て地域愛を育む教育に取り組む。</p>
32	中村高等学校 ・ 中村中学校	<p>⑧学力向上・進路保障 幡多地域の進学拠点校として、併設型中高一貫教育※のメリットを生かした学習指導と、幅広い活動により高い学力と人間性を身に付け、生徒の可能性を広げ、国公立大学や難関私立大学への進学など、生徒の希望する進路を実現できるための支援を更に充実させる。</p> <p>⑨6年間の中高一貫教育の充実 併設型中高一貫教育校として、6年間の教育内容・教育活動を更に充実させるとともに、キャリア教育（大学に直接触れる機会を設けるなどなど）にも力を入れ、将来、幡多地域を支え貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>⑩部活動の活性化 幡多地域の「運動部活動強化拠点校（平成31年度までの指定）」として、競技力の向上を図る取組や中学生の体験入部等を更に充実させ、部活動の振興を通じた特色ある学校づくりに取り組む。</p> <p>⑪地域との連携 インターンシップやボランティア活動、学校内外での様々な取組を通して地域との連携を更に強化し、将来、地域のために「動ける」人材の育成に努める。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
33	中村高等学校 西土佐分校	<p>④学力向上・進路保障 ICTを活用した学習や連携の取組を充実させるとともに、少人数の利点を生かして、国公立大学等への進学から就職まで、生徒の希望する進路の実現を支援する。</p> <p>④カヌー部の活性化 小中高が連携したカヌーの取組を充実させるとともに、寮などを有効活用することで地域外からの受け入れ体制も整え、地域内外からの生徒数確保に努める。</p> <p>④地域との連携 ボランティアグループ「ラポール」の地域と連携した取組を更に充実させるとともに、地域の特性を生かした取組や地元中学校との連携を通じて、教育活動の充実を図る。</p> <p>④広報活動の充実 地元以外からの生徒確保のために、地元自治体や地域と一体となって、県内はもちろん、県外への情報発信等の広報活動を更に推進する。</p>
34	宿毛工業 高等学校	<p>④学力向上・進路保障 進路希望に応じて弾力的な教育課程を編成し、就職と国公立大学等への進学希望にも応えられる指導体制と教育活動の更なる充実に努める。</p> <p>④教育内容 ものづくり競技大会での全国上位入賞を目指し、ものづくりの知識や技術の習得、資格取得の取組を充実させるとともに、中学生やその保護者等に対して様々な取組を通して広報を行い、生徒数確保に努める。なお、今後の入学志願者の動向も踏まえながら、各学科（専攻）の入学者が入学定員の過半数を満たさない等の状況があった場合については、学科改編を検討する。</p> <p>④企業等との連携 幡多地域の工業教育の拠点校として、高度な先端技術の知識や技術の習得、進路選択に生かすキャリア教育として、地元・県内企業との連携を更に促進し、県内企業と産業を理解した工業技術者として産業を担う人材の育成に努める。</p> <p>④地域との連携 部活動の更なる充実と、ものづくりやスポーツによる小中学校や地域と連携した取組により、地域社会の要望に応える活力ある学校づくりに取り組む。</p>

	学 校 名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
35	宿毛高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 総合学科の特徴である、系列によるカリキュラムを生かした教科指導の 実践や、「産業社会と人間」の取組を生かし、進路指導を充実させ、 多様な進路希望に対応する。</p> <p>⑨総合学科の系列の見直し 進路目的別に体系的時間割が作成できるよう系列の見直しを行う。な お、見直しの際には、幡多地域の実態を踏まえて、商業に関する科目 選択を可能とするよう位置付ける。</p> <p>⑩部活動の活性化 スポーツの盛んな地域の期待に添うように運動部の活動を活性化して いく。具体的には、休部状態であるレスリングを復活。地域で盛んな 相撲、男子バレーボール、サッカーなどの競技については、小中学校 との縦の関係を深め活性化を図る。</p> <p>⑪地域との連携 地域と係わりがあるコマツ製作所や早稲田大学・高等学校との交流を 充実させ、地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成に努める。</p> <p>⑫広報活動の充実 総合学科の内容やメリットを中学生や保護者等に理解してもらうよう に広報を練り直し実施する。また、普通科教科だけでなく、多様な専 門分野を学べるという総合学科の本来の趣旨を、地域の広報やイベン トを活用して地域に伝えるとともに、その実現に努める。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑬学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズの ある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒 の希望する進路の実現に向けて、進路指導体制を強化し支援する。</p> <p>⑭生徒支援体制の充実 新入生の歓迎会や県の体育大会の全員応援など、仲間づくりの機会を 多く設定し、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p> <p>※南海トラフ地震への対応については、3ページ参照</p>

	学校名	「後期実施計画」における学校の振興に向けた取組
36	清水高等学校	<p>【全日制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 基礎学力の定着・向上の取組、徹底した個別指導などを通して、国立大学等への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。</p> <p>⑧英語教育活動の充実 アメリカ・フェアハイブン姉妹校との留学制度や、短期海外留学、英語検定の取得拡大など、英語教育活動を更に充実させ、グローバル社会に通用する人材の育成に努める。</p> <p>⑧教育内容 地元中学校との連携型中高一貫教育による連携授業の推進や、ジョン万次郎などの地域に関連した教育資源や教材を活用した教育活動を推進することで、学力の向上や社会性の育成を図り、将来、地域を支える人材の育成に努める。</p> <p>⑧地域との連携 土佐清水市を担う人材育成のための「小中高一貫地域学習プログラム」を策定する。また、これとあわせて授業や部活動による中高交流活動を拡大し、地元中学校からの進学率の向上に努める。</p> <p>【定時制】</p> <p>⑧学力向上・進路保障 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒に応じた支援を行うとともに、社会性等の育成を図り、生徒の希望する進路の実現に向けて、進路指導体制を強化し支援する。</p> <p>⑧生徒支援体制の充実 異年齢交流活動や体験学習などの活動を充実させることで、多様な生徒の居場所づくりとしての役割を果たす。</p> <p>【全日制・定時制】</p> <p>⑧高台移転 南海トラフ地震による津波被害から確実に生徒を守るために、平成35年度をめどに高台へ移転する。 ※高台移転の在り方については、3ページ参照</p>

資 料

1 審議過程

(1) 教育委員会協議会

ア 平成29年度

回	開催日	会場	開催時間	参加者	会議	内容
第1回	10月24日 (火)	高知共済会館	18:00~19:20	2	全体会	「県立学校再編振興計画」の内容について確認 「後期実施計画」策定スケジュールについて確認 「後期実施計画」の策定に係る現状について説明
第2回	11月21日 (火)	安芸市民会館	18:00~20:07	23	地域会	対象: 東部地域(4校) ・県立学校の現状、今後の状況について説明 ・意見聴取: 室戸市、田野町、安芸市
第3回	11月30日 (木)	南国市保健福祉センター	18:00~20:00	29	地域会	対象: 中部地域①(5校) ・県立学校の現状、今後の状況について説明 ・意見聴取: 香南市、香美市、南国市
第4回	12月4日 (月)	高知共済会館	18:00~20:15	37	地域会	対象: 中部地域②(17校)、北部地域(2校) ・県立学校の現状、今後の状況について説明 ・意見聴取: 本山町、土佐町、いの町、土佐市
第5回	1月15日 (月)	四万十町農村環境改善センター	18:00~20:17	53	地域会	対象: 高吾地域(6校) ・県立学校の現状、今後の状況について説明 ・意見聴取: 佐川町、四万十町
第6回	1月24日 (水)	四万十市立中央公民館	18:00~19:45	26	地域会	対象: 幡多地域(7校) ・県立学校の現状、今後の状況について説明 ・意見聴取: 黒潮町、四万十市、宿毛市、土佐清水市
第7回	2月13日 (火)	高知共済会館	18:00~20:30	2	全体会	地域会での意見の確認 「後期実施計画」策定に関する全体の方向性について協議 ・本校の最低規模について ・分校の最低規模について ・定時制(夜間部)の最低規模について ・各校の振興策について
第8回	2月23日 (金)	県庁正庁ホール	18:00~19:45	3	全体会	「後期実施計画」策定に関する全体の方向性について協議 ・南海トラフ地震への対応 ・併設型中高一貫教育校について ・学科について
第9回	3月16日 (金)	高知共済会館	18:00~19:56	17	全体会	県立高等学校の地域別配置状況について説明 地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について協議 ・東部地域、北部地域、中部地域①
第10回	3月28日 (水)	高知共済会館	18:00~19:49	8	全体会	地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について協議 ・中部地域②、高吾地域、幡多地域

イ 平成30年度

回	開催日	会場	開催時間	参加者	会議	内容
第1回	4月23日 (月)	高知共済会館	18:00~19:18	3	全体会	「後期実施計画」策定スケジュールについて確認 高吾地域の継続検討事項について協議 ・四万十町の窪川高校と四万十高校の学校の在り方 幡多地域の継続検討事項について協議 ・土佐清水市の清水高校の高台移転
第2回	5月14日 (月)	高知共済会館	18:00~19:44	12	全体会	キャンパス校について確認 高吾地域の継続検討事項について協議 ・四万十町の窪川高校と四万十高校の学校の在り方 東部地域の継続検討事項について協議 ・安芸市の安芸中学・高校と安芸桜ヶ丘高校の学校の在り方
第3回	5月18日 (金)	高知共済会館	18:30~20:15	11	全体会	県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の「中間とりまとめ(案)」について協議

回	開催日	会場	開催時間	参加者	会議	内容
第4回	7月11日 (水)	安芸市民会館	18:30~20:40	38	地域会	東部地域の活力ある拠点校の在り方についての意見聴取及び協議
第5回	7月13日 (金)	四万十町地域 交流センター くぼかわ	18:30~19:44	35	地域会	四万十町内の2校の高等学校の在り方についての意見聴取及び協議
第6回	7月17日 (火)	きらら大正	18:30~20:15	55	地域会	四万十町内の2校の高等学校の在り方についての意見聴取及び協議
第7回	8月29日 (水)	高知共済会館	18:00~20:52	9	全体会	県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」における中山間地域の高等学校の在り方について協議 窪川高等学校と四万十高等学校の在り方について協議
第8回	9月5日 (水)	高知共済会館	18:00~21:00	8	全体会	県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の「最終とりまとめ(パブリックコメント案)」について協議

(2) 教育委員会

年	開催日	内容
平成30年	5月23日(水)	県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の「中間とりまとめ」について
平成30年	9月11日(火)	県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の「最終とりまとめ(パブリックコメント案)」について

(3) パブリックコメント

実施期間：平成30年10月○日(○)～平成30年11月○日(○) ← 決定後に記載

2 県立高等学校及び県立中学校の改編等の実施状況

【県立高等学校】

実施年度	学校名	改 編 前				改 編 後				備 考
		課程	学科	科・コース	学級数	課程	学科	科・コース	学級数	
17	安 芸	全	文 理	文 理 科	2					(募集停止)
	高知農業	全	農 業	生産経済科	1	全	農 業	農業総合科	1	学科改編
				園 芸 科	1			畜産総合科	1	
				畜 産 科	1			森林総合科	1	
				林 業 科	1			環境土木科	1	
				農業土木科	1			食品ビジネス科	1	
				食品化学科	1			生活総合科	1	
	生活科学科	1								
	高知追手前	全	普 通	普通科 (人文・語学コース) (総合科学コース) (自然科学コース)	4 1 2	全	普 通	普通科 (人文コース) (科学コース)	4 3	コース改編
	高知丸の内	全	普 通	普通科	3	全	普 通	普通科(単位制)	4	単位制、男女共学に
			家 庭	家政科	1					(募集停止)
			音 楽	音楽科	1	全	音 楽	音楽科(学年制)	1	男女共学に
	大 方 (大方商業)	全	商 業	商業科	1	定 (※)	普 通	普通科(昼)	2	校名変更 学科改編 課程転換
				情報科	1			普通科(夜)	1	
						通	普 通	普通科	100人	新設
	中 村	全	外国語	英語科	1					
		定	普 通	普通科	1					(募集停止)
通		普 通	普通科	100人						
宿毛工業	全	工 業	機械・生産系 (機械工学科、 自動車工学科)	2	全	工 業	機械科(機械専攻、自動車専攻)	1	学科改編	
			建設・環境系 (土木工学科、 建築工学科)	2			建設科(土木専攻、建築専攻)	1		
			電気・情報系 (電気工学科、 情報工学科)	2			電気科	1		
							情報技術科	1		
中 芸	全	普 通	普通科	2	定 (※)	普 通	普通科(昼)	2	課程転換	
	定	普 通	普通科	1			普通科(夜)	1		
安 芸	定	普 通	普通科	1					(募集停止)	
春 野 (高知園芸)	全	農 業	施設園芸科	1	全	総 合	総合学科 (人文教養、生活福祉、 芸術スポーツ、園芸科学、 食農科学、造園装飾系列)	4	校名変更 学科改編	
			園芸経済科	1						
			環境デザイン科	1						
			生活科学科	1						
高知海洋	全	水 産	マリン技術科	1	全	水 産	海洋学科	2	学科改編	
			マリン工学科	1						
			マリン科学科	1						
須崎工業					全	工 業	ユニバーサルデザイン科	1	新設	
久礼分校	全	家 庭	家政科	1	38				(募集停止)	

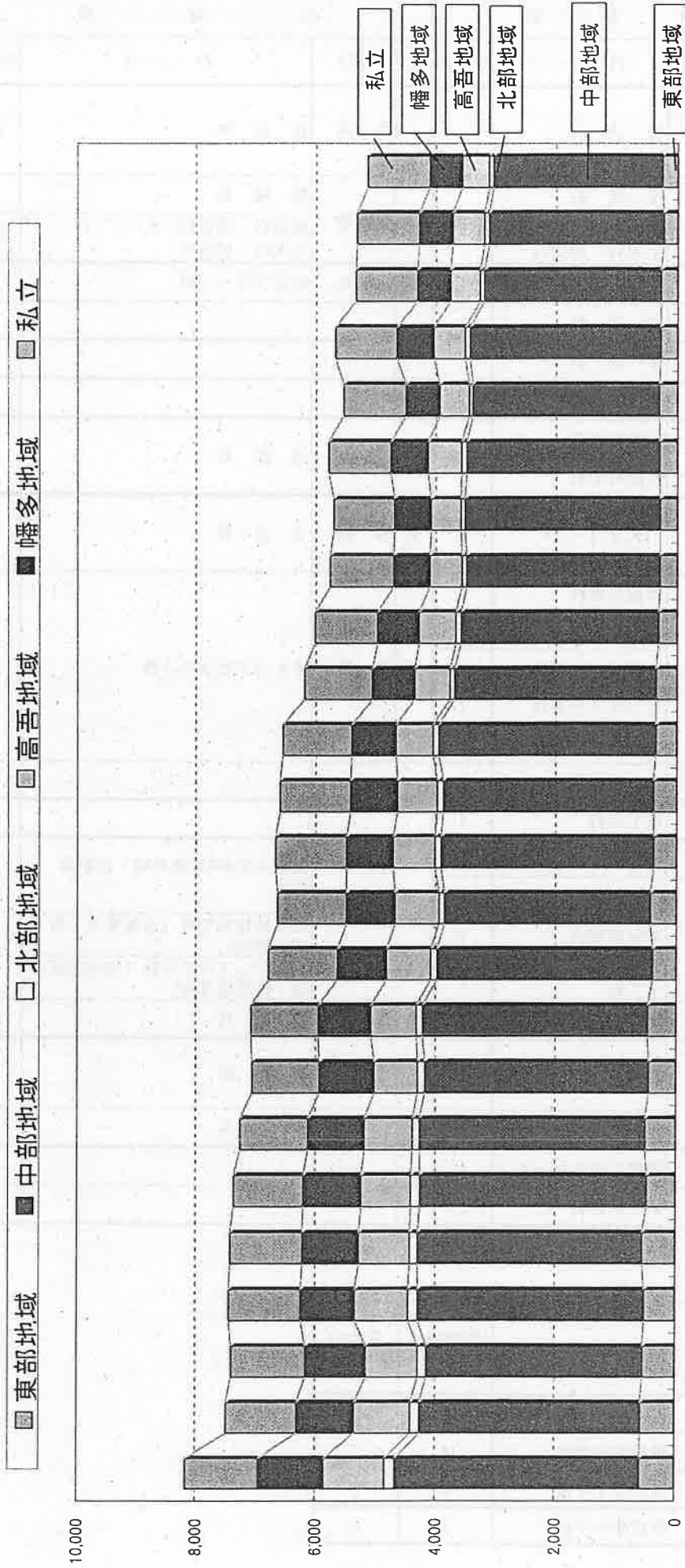
実施年度	学校名	改 編 前				改 編 後				備 考
		課程	学科	科・コース	学級数	課程	学科	科・コース	学級数	
19	室戸、山田 高岡、須崎 佐川、窪川 宿毛、清水	定	普通	普通科		定 (※)	普通	普通科	各1	学年制を単位制に改編
	工業		機械科		工業		機械科	1		
			機械科、電気科、 土木科、建築科				機械科、電気科、 土木科、建築科	各1		
20	高知工業	全	工業	インテリア科	1	全	工業	総合デザイン科	1	学科改編
	大 橋	全	普通	普通科	1					(募集停止)
21	仁 淀	全	普通	普通科	1					(募集停止)
22	窪 川	定	普通	普通科	1					(募集停止)
23	高知南	全	国際	国際教養科	1	全	国際	国際科	1	学科改編
				国際科学科	1					
24	高知追手前	全	普通	普通科 (人文コース) (科学コース)	4 3	全	普通	普通科	7	コース制廃止
	伊野商業	全	商業	情報処理科	1	全 (※)	商業	キャリアビジネス科	4	学年制を単位制に改編、 学科改編
				国際観光科	1					
				情報デザイン科	1					
				ビジネス会計科	1					
メディアクリエート科	1									
大月分校	全	普通	普通科	1					(募集停止)	
26	高知東工業	全	工業	理工学科	1					(募集停止)
28	須崎工業	全	工業	機械科	1	全	工業	機械系学科(機械専攻・造船専攻) 電気情報系学科(電気専攻・電子情報専攻) システム工学系学科(機械制御専攻・住環境専攻)	1 1 1	学科改編
				造船科	1					
				電気情報科	1					
	ユニバーサルデザイン科	1								
須崎	全	総合	総合学科	1	全	普通	普通科	1	学科改編	
29	城山、高岡	全	普通	普通科	2	全 (※)	普通	普通科	2	学年制を単位制に改編
	大方	定 (※)	普通	普通科(昼)	2	全 (※)	普通	普通科	2	課程転換
30	安芸桜ヶ丘	全	工業	環境エネルギー科	1					(募集停止)
	高知北	定	看護	衛生看護科	1					(募集停止)

【県立中学校】

実施年度	学校名	実施状況	開設時の学級規模	現在の学級規模
14	県安芸中	新設 併設型中学校	2	2
	県高知南中	新設 併設型中学校	4	2
	県中村中	新設 併設型中学校	2	2
30	県高知国際中	新設 併設型中学校	2	2

3 地域別中学校卒業生数の推移

H16.3~H39.3 ただし、H31.3以降は推計



年	H.16.3	H.17.3	H.18.3	H.19.3	H.20.3	H.21.3	H.22.3	H.23.3	H.24.3	H.25.3	H.26.3	H.27.3	H.28.3	H.29.3	H.30.3	H.31.3	H.32.3	H.33.3	H.34.3	H.35.3	H.36.3	H.37.3	H.38.3	H.39.3
東部地域	581	570	535	512	550	474	504	447	468	390	426	372	385	348	350	307	283	284	297	303	282	277	231	253
中部地域	4,096	3,698	3,614	3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	3,340	3,270	3,207	3,234	3,192	3,089	3,156	2,924	2,895	2,795
北部地域	1,770	1,531	1,461	1,621	1,331	1,491	1,116	1,118	1,061	1,041	94	103	100	94	76	92	77	65	84	60	80	72	71	80
高吾地域	1,003	931	867	889	848	836	805	726	760	741	740	701	670	623	595	619	538	497	560	487	521	489	529	438
幡多地域	1,091	949	994	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	701	688	607	618	625	570	621	554	561	543
私立	1,227	1,180	1,239	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	1,121	1,035	1,052	1,008	1,033	1,034	1,022	1,025	1,040	1,035
計	8,168	7,481	7,395	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	6,183	6,011	5,764	5,706	5,791	5,543	5,682	5,341	5,327	5,145
H25.3卒業生比																								
▲ 155 ▲ 123 ▲ 136 ▲ 238 ▲ 588 ▲ 770 ▲ 1017 ▲ 1075 ▲ 990 ▲ 1238 ▲ 1099 ▲ 1440 ▲ 1454 ▲ 1636																								
前年度比																								
▲ 155 ▲ 32 ▲ 73 ▲ 42 ▲ 360 ▲ 172 ▲ 247 ▲ 58 ▲ 85 ▲ 248 ▲ 139 ▲ 341 ▲ 14 ▲ 182																								

4 平成31年度県立高等学校募集学級数別学校一覧

(1) 全日制

	学科	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	計
東部地域	普通			安芸						3校 7学級
	工業・商業		安芸桜ヶ丘							
	総合		室戸							
中部地域	普通		城山 高岡					高知追手前 岡豊		16校 82学級
	普通・理数							高知小津		
	普通・外国語							高知西		
	普通・国際						高知南			
	普通・音楽					高知丸の内				
	普通・商業					山田				
	農業						高知農業			
	工業				高知東工業			高知工業		
	商業				伊野商業					
	水産		高知海洋							
	総合				春野					
	総合・看護						高知東			
北部地域	普通	吾北分校	嶺北							2校 3学級
高吾地域	普通		佐川							5校 14学級
			窪川							
			檜原							
			四万十							
	普通・工業						須崎総合			
幡多地域	普通	西土佐分校	清水			中村				7校 21学級
			大方							
					幡多農業					
					宿毛工業					
	総合			宿毛						
計		2校	12校	2校	5校	3校	4校	4校	1校	33校
規模別学校割合		6.1%	36.4%	6.1%	15.1%	9.1%	12.1%	12.1%	3.0%	

(2) 定時制及び多部制単位制

	学科	1学級	2学級	3学級	4学級	計
東部地域	普通	室戸				2校 3学級
		中芸(昼)				
		中芸(夜)				
中部地域	普通	山田	高知北(昼)			5校 10学級
		高知北(夜)				
		高岡				
	工業	高知東工業			高知工業	
高吾地域	普通	須崎総合				2校 2学級
		佐川				
幡多地域	普通	大方(夜)				3校 3学級
		宿毛				
		清水				
計						12校

(3) 通信制

- ◎高知北高校 (1学年募集定員200人)
- ◎大方高校 (1学年募集定員100人)

5 平成31年度県立高等学校の学科及びコース一覧

(1) 全日制の設置状況

地域	東部地域			中部地域			北部地域			高吾地域			幡多地域				
	学校名	科・コース	八千代員に対する1学年学級数	学校名	科・コース	八千代員に対する1学年学級数	学校名	科・コース	八千代員に対する1学年学級数	学校名	科・コース	八千代員に対する1学年学級数	学校名	科・コース	八千代員に対する1学年学級数		
普通科	安芸	普通科	3	城山	普通科	2	嶺北	普通科	2	佐川	普通科	2	大方	普通科	2		
			山田	普通科	4	吾北分	普通科	1	須崎総合	普通科	3	中村	普通科	5			
			岡豊	普通科	6	須崎総合	窪川	普通科	2	西土佐分	普通科	1					
			高知南	普通科	5		橘原	普通科	1	清水	普通科	2					
			高知追手前	普通科	7		四万十	普通科	1								
			高知丸の内	普通科	4												
			高知小津	普通科	6												
			高知西	普通科	6												
高岡	普通科	2															
普通科系 専門学科				高知南	国際科	1											
				高知丸の内	音楽科	1											
				高知小津	理数科	1											
				高知西	英語科	1											
普通科 (コース)				岡豊	体育コース	1				四万十	自然環境コース	1					
				岡豊	芸術コース	1											
農業に関する 学科	作物・園芸系			高知農業	農業総合科	1							幡多農業	園芸システム科	1		
		畜産系			高知農業	畜産総合科	1							幡多農業	アグリサイエンス科	1	
			林業系			高知農業	森林総合科	1							幡多農業	グリーン環境科	1
				生活系			高知農業	生活総合科	1							幡多農業	生活コーディネート科
			食品系				高知農業	食品ビジネス科	1								
				土木系			高知農業	環境土木科	1								
工業に関する 学科	機械系			高知東工業	機械科	1							宿毛工業	機械科	1		
					機械生産システム科	1											
				高知工業	機械科	1				須崎総合	機械系学科	1					
	造船系			高知工業	情報技術科	1							宿毛工業	情報技術科	1		
		情報系			高知工業	工業化学科	1										
	化学系				高知東工業	電子科	1				須崎総合	電気情報系学科	1	宿毛工業	電気科	1	
		電気系			高知工業	電気科	1										
	建設系		安芸桜ヶ丘	環境建設科	1	高知工業	建築科	1						宿毛工業	建設科	1	
				高知工業	土木科	1				須崎総合	システム工学系学科	1					
制御系				高知東工業	電子機械科	1											
	デザイン系			高知工業	総合デザイン科	1											
商業に関する 学科		安芸桜ヶ丘	情報ビジネス科	1	山田	商業科	1										
				伊野商業	キャリアビジネス科	4											
水産に関する 学科				高知海洋	海洋学科	2											
看護に関する 学科				高知東	看護科	1											
総合学科	室戸	総合学科	2	高知東	総合学科	5							宿毛	総合学科	3		
				春野	総合学科	4											

(2) 多部制単位制の設置状況

地域	東部地域		中部地域		北部地域		高吾地域		幡多地域	
	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース
多部制単位制	中芸	普通科(昼間部) 普通科(夜間部)	高知北	普通科(昼間部) 普通科(夜間部)						

(3) 定時制・通信制課程の設置状況

地域	東部地域		中部地域		北部地域		高吾地域		幡多地域	
	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース	学校名	科・コース
定時制(夜間)	室戸	普通科	山田	普通科			須崎	普通科	大方	普通科
			高岡	普通科			佐川	普通科	宿毛	普通科
			高知東工業	機械					清水	普通科
				機械						
			高知工業	電気						
			土木							
			建築							
通信制			高知北	普通科					大方	普通科

6 「県立高等学校再編振興計画」における適正な学校規模の維持と適切な学校の配置について（後期実施計画）版）

高等学校の教育の質を維持・向上できるよう、県全体のバランスを考慮しながら、適正な学校規模の維持と適切な配置に努める。

適正規模

（中山間地域を含めた）県全体としては、「1 学年 4 ～ 8 学級」の学校規模。（一定の生徒数が見込まれる）高知市及びその周辺地域は、「1 学年 6 学級以上」の学校規模の維持に努める。

特例校

（「1 学年 1 学級（20 人以上）以上」を最低規模として、できるだけ維持するため）
 ・過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校は、地域の学びの機会を保障するために特例校とする。
 ・不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校については特例校とする。

普通科

卒業後の多様な進路選択の保障と地域を担う人材の育成という観点から、県全体のバランスを考慮した適切な配置に努める。

進学拠点校

自校の生徒の学力向上や進路指導だけでなく、その成果を他の高校にも普及することで、進学指導力を向上させ牽引校。

連携型中高一貫教育校

現在設置されていない地域への配置も検討する。

併設型中高一貫教育校

東部、中央部、西部の 3 地域での配置を維持する。

学び直しの機能を持った学校

不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等を受け入れる体制を整えた学校。

総合学科の学校

生徒が興味関心に応じて系列を選択することで多様な進路希望に対応できる特色を生かすために、現在の各地域での配置を維持することに努める。ただし、生徒数の減少等により複数の系列を置くことが困難な学校については、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。

産業系専門学科の学校

本県の産業を担う人材の育成及び産業振興のため、現状の学校の配置を維持することに努める。

分校

分校は、募集停止する条件を緩和し、平成 27 年度から「1 学年 1 学級 20 人以上を 2 年連続して満たない状況になった場合」とし、維持する。

定時制・通信制の学校

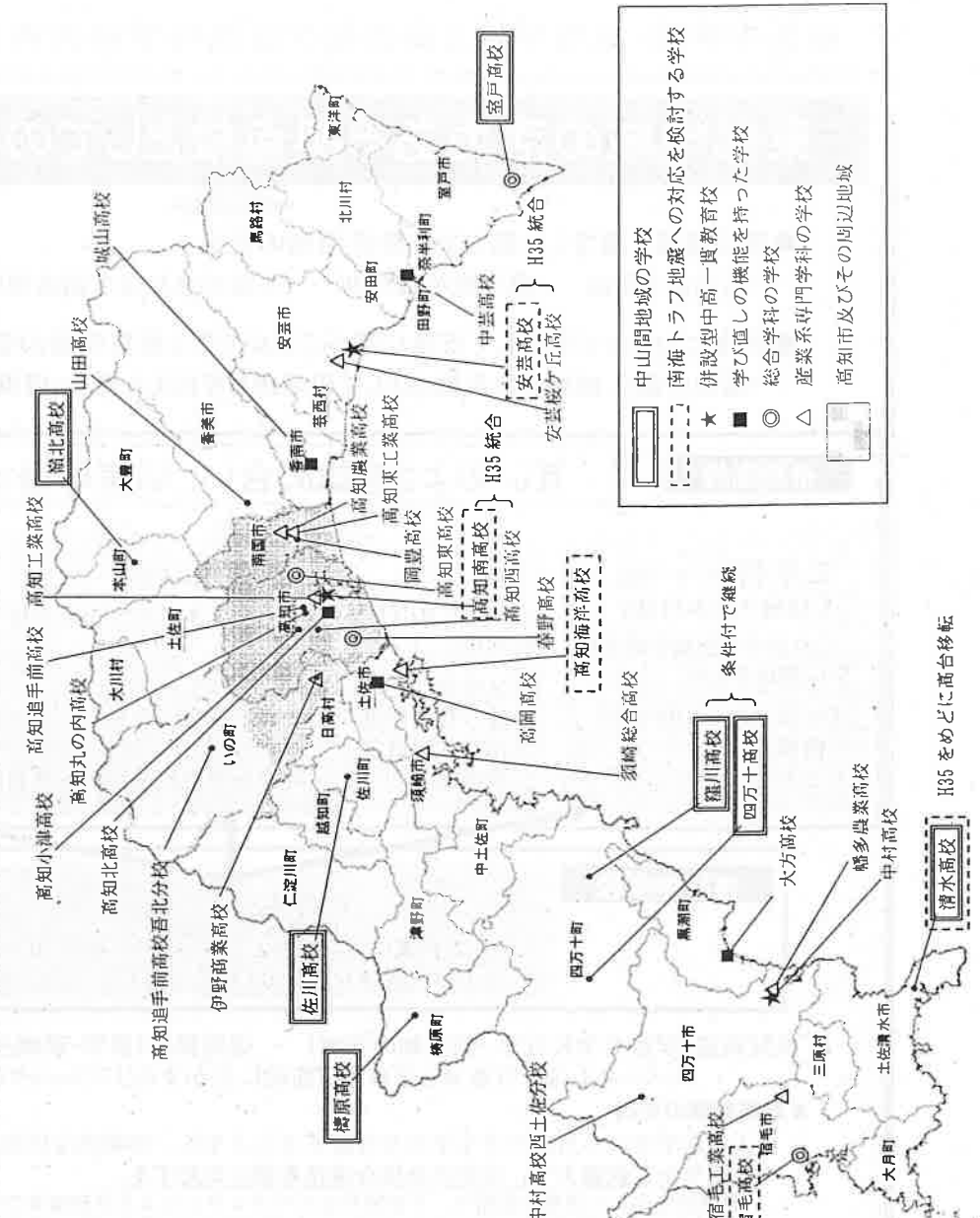
・定時制（夜間）は、「学校全体の生徒数を 20 人以上」に緩和し、維持する。
 ・通信制は、現在の中央部と西部の 2 校の配置を維持する。

中山間地域の学校

※後期実施計画から追加
 ・ICT の活用により 4 年制大学への進学希望にも対応できる学習環境の整備や、社会性の育成を図る取組を推進する。
 ・市町村と連携して、地元中学校からの進学率を向上させる。
 ・特色ある学校づくりを行い、地域外の生徒を確保する。

南海トラフ地震への対応

・海沿いにあり津波により、大きな被害が想定される学校については、学校の特性や地域の実態を踏まえながら、「現校地での安全の確保と、適地への移転の可能性を含め検討」する。



H35 をめどに高台移転

7 安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校の統合後の学校の姿

東部地域の活力ある拠点校としての中高一貫教育校

- 適正規模を維持した魅力ある教育活動の充実
 - ・活力ある学校
 - ・部活動の活性化
 - ・生徒の多様な進路希望に対応
 - ・中高一貫教育の充実
- 将来にわたって安心して安全に学ぶことができる教育環境の整備
 - ・震災に強く、地域の防災拠点としての活用も見据えた施設・設備に改築・改修

併設高校

互いのよさを認め合い、切磋琢磨する関係

工業科 <1学級>

【機械・土木科(案)】

これまでの伝統を継承し、更に発展させる。

〔1年次からの専攻〕

- ・機械専攻
- ・土木専攻

普通科 <3学級>

学習指導の充実により、大学進学や公務員合格等の進路実現につなげる。

〔2年次からのコース〕

- ・国公立大学進学コース(理系・文系)
- ・私立大学進学コース
- ・地域創生コース(専修各種学校進学・公務員志望)

商業科 <1学級>

【商業探究科(案)】

これまでの伝統を継承し、更に発展させる。

〔2年次からの科目選択〕

- ・現在の取組を更に発展
- ・進路希望に対応する科目を充実

併設中学校

中学校 <2学級>

自分の将来について考え、そのための基礎・基本となる学力・体力・精神力を養う活動を充実する。

東部地域の中学校からの進学率を60%以上に向上する。

- 【文武両道(学習や学校行事、部活動の充実)・進路保障(進学・就職ともに夢を叶える一歩を踏み出す)・スペシャル(専門)教育と強みを横断的に生かすホリスティック(包括)教育による全人教育の実施】

★進路保障の実現

大学進学等にも対応できる学力を保証するとともに、体験的な活動を通して勤労観・職業観を養うことで、進学から就職まで、生徒の多様な進路希望に対応する。

- ・習熟度に応じた授業の実施や、きめ細かなカリキュラムによる学習指導の充実
- ・国公立大学及び難関私立大学への進学に、効果的に対応できる教育課程の編成(普通科の30%が合格)
- ・公務員講座の充実(公務員希望者の80%が合格)
- ・工業科においては、幅広い専門的知識・技術を学ぶ体制の充実を図るとともに、就職支援を強化する。
- ・商業科においては、地域貢献活動や商品開発などを通して専門的知識・技能を学ぶ仕組みを充実させ、就職支援を強化する。 ※工業科及び商業科ともに、就職率100%を達成する。
- ・キャリア教育の充実(職場体験・インターンシップ、講演、ワークショップなど)

★地域を支える人材の育成

- ・安芸市との連携協定による地域協働活動の推進(防災教育やまちづくりなど)
- ・東部地域のことを知り、地域の課題を探究する課題研究等の実施
- ・市町村立中学校との連携

★生徒が切磋琢磨できる環境づくり

- ・地域の実態やニーズ、文化を踏まえた部活動の充実
- ・生徒会活動や体育祭・文化祭等の特別活動の充実

学科や教育課程を改編し統合

安芸中学校・高等学校 (H30.5.1現在)

安芸桜ヶ丘高等学校 (H30.5.1現在)

〔中学校〕

- ・生徒数:139名
- ・1学年:60名(2学級)
- ・東部地域で唯一の県立中学校であり、学力の定着や充実した英語教育を実践している。

〔高等学校〕

- ・生徒数:290名
- ・1学年:普通科(3学級)
- ・東部地域の進学拠点校として、国公立大学や難関私立大学への進学実績がある。

- ・生徒数:95名
- ・1学年:2科(2学級)
 - 工業科1科【環境建設科】2専攻(1学級)(土木専攻・建築専攻)
 - 商業科1科【情報ビジネス科】2コース(1学級)(ビジネスコース・デザインコース)
- ・東部地域唯一の工業科と商業科を有する学科として、県内外の大手企業への就職等の実績がある。
- 複数の専門学科を併設している強みとノウハウの蓄積

6年間の中高一貫教育校として、実践とノウハウの蓄積

